

平成20年度(4)

県政モニター アンケート報告書

テーマ「生物多様性の保全」

平成21年 3 月

も く じ

調査の概要	1
-------------	---

調査結果

1 生物多様性の保全	3
2 自由意見	26

質問と回答	37
-------------	----

I 調査の概要

1 調査のテーマ

生物多様性の保全

2 調査の趣旨

本県では、平成20年3月に「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」を改正し、「生物多様性の保全と持続可能な利用」を自然環境保全施策の基本理念として掲げるとともに、「生態系ネットワークの形成」、「希少野生動植物の保護」などを主要施策として位置付けています。

また、生物多様性に関する行動計画として「あいち自然環境保全戦略（仮称）」を策定し、平成21年度以降、COP10の開催地に相応しい生物多様性の豊かな地域づくりを総合的に推進することとしています。

そこで、今回のアンケートは、生物多様性に関する意識や活動、今後の自然環境保全行政の進め方などについて、県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

3 調査対象

県政モニター 497人（平成20年12月3日現在）

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	497人	100.0%	153人	189人	155人	
性 別	男 性	242	48.7	75	91	76
	女 性	255	51.3	78	98	79
年 代 別	20 代	74	14.9	21	27	26
	30 代	110	22.1	32	44	34
	40 代	83	16.7	28	30	25
	50 代	78	15.7	24	29	25
	60 代 以上	152	30.6	48	59	45

4 調査期間

平成20年12月4日から平成20年12月21日まで

5 調査方法

郵送・インターネット

6 回答者数

480人（回収率96.6%）

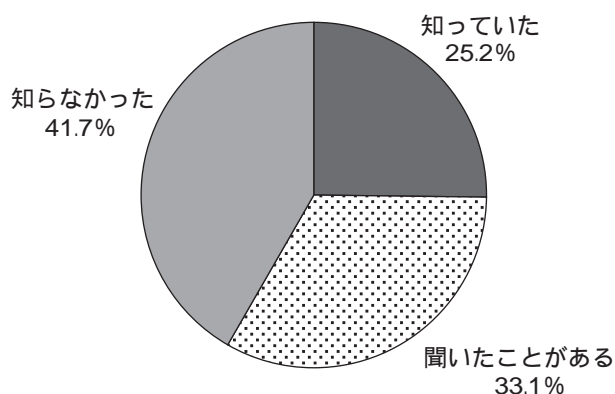
記号・符号・用語の説明

- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M.T.(Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) (-) は該当数値のないことを示す。

II 調査結果

問1 「生物多様性」とは、すべての生物の間に違いがあることを言い、生態系、種、遺伝子という3つのレベルで多様性があるとされています。また、生物多様性は私たちの生活に必要な大気、土壌、水、食料などの恵みをもたらしていますが、「生物多様性」という言葉を知っていましたか。(回答は1つ)

N = 480

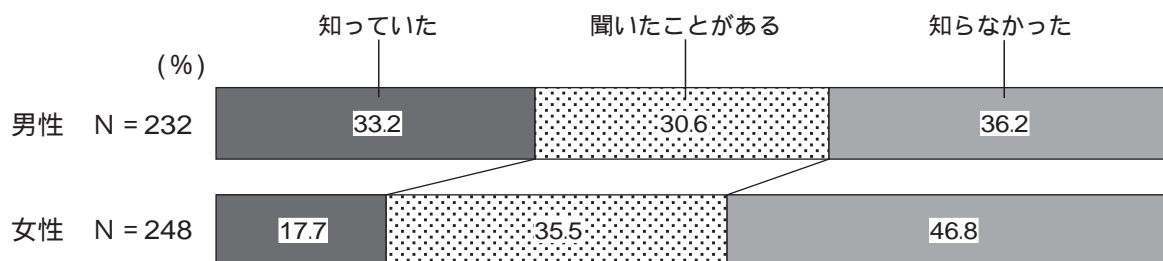


「生物多様性」という言葉を知っているかを尋ねたところ、「知っていた」が25.2%、「聞いたことがある」が33.1%、「知らなかった」が41.7%となっている。

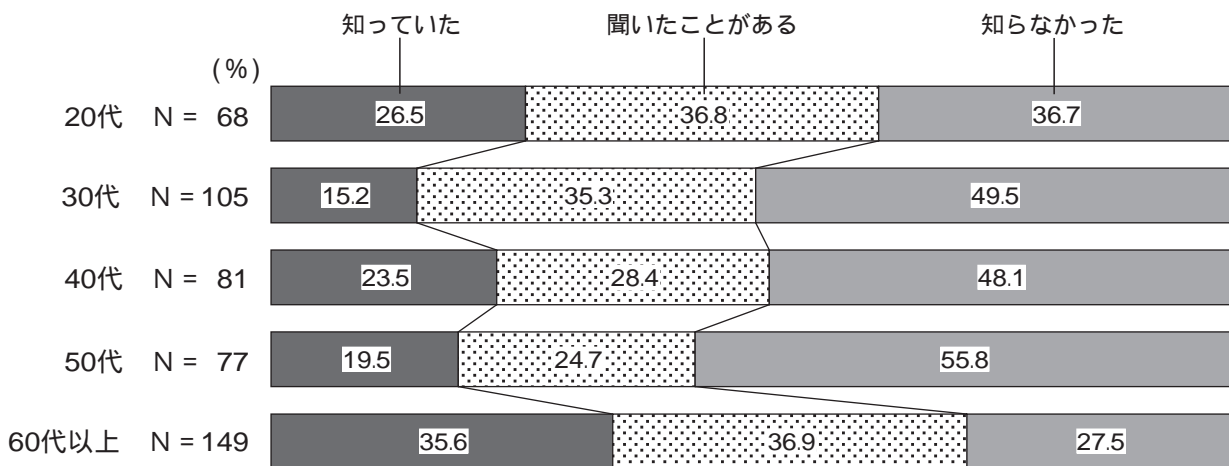
男女別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は男性で高くなっている。

年代別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は60代以上が35.6%で最も高く、次いで20代が26.5%となっている。

(男女別)



(年代別)

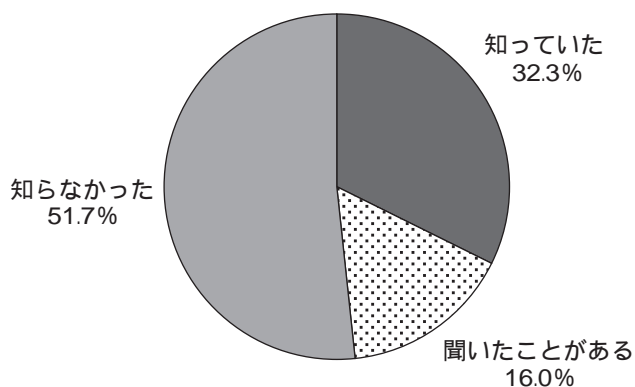


「知っていた」と「聞いたことがある」を合わせた認知度は58.3%であり、昨年7月の県政世論調査の「かなり知っている」と「ある程度知っている」を合わせた12.4%よりも高くなっています。しかし、4割の方は知らないと答えており、生物多様性の意味や大切さについて、わかりやすい普及啓発に一層努めていきます。

(環境部自然環境課)

問2 2010年、愛知・名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)」が開催されます。これは、191の国と地域が参加して、地球上の生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用、薬の開発など生物の遺伝資源から得られる利益の公正かつ衡平な配分について話し合うものですが、その開催を知っていましたか。(回答は1つ)

N = 480

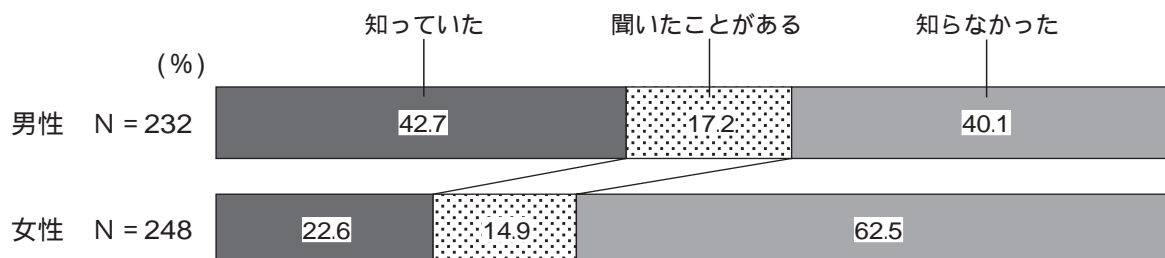


2010年に、愛知・名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)」が開催されることを知っているかを尋ねたところ、「知っていた」が32.3%、「聞いたことがある」が16.0%、「知らなかった」が51.7%となっている。

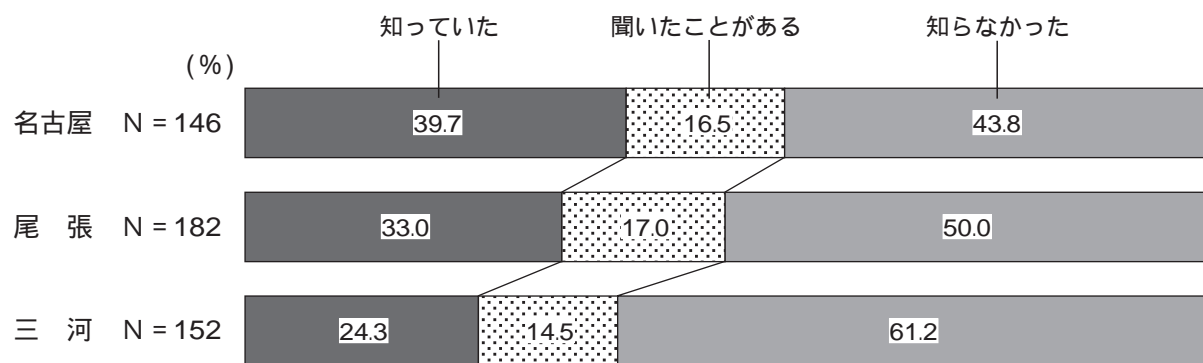
男女別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は男性で42.7%、女性で22.6%と男性がかなり高くなっている。

地域別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は、名古屋地域、尾張地域、三河地域の順で高くなっている。

(男女別)

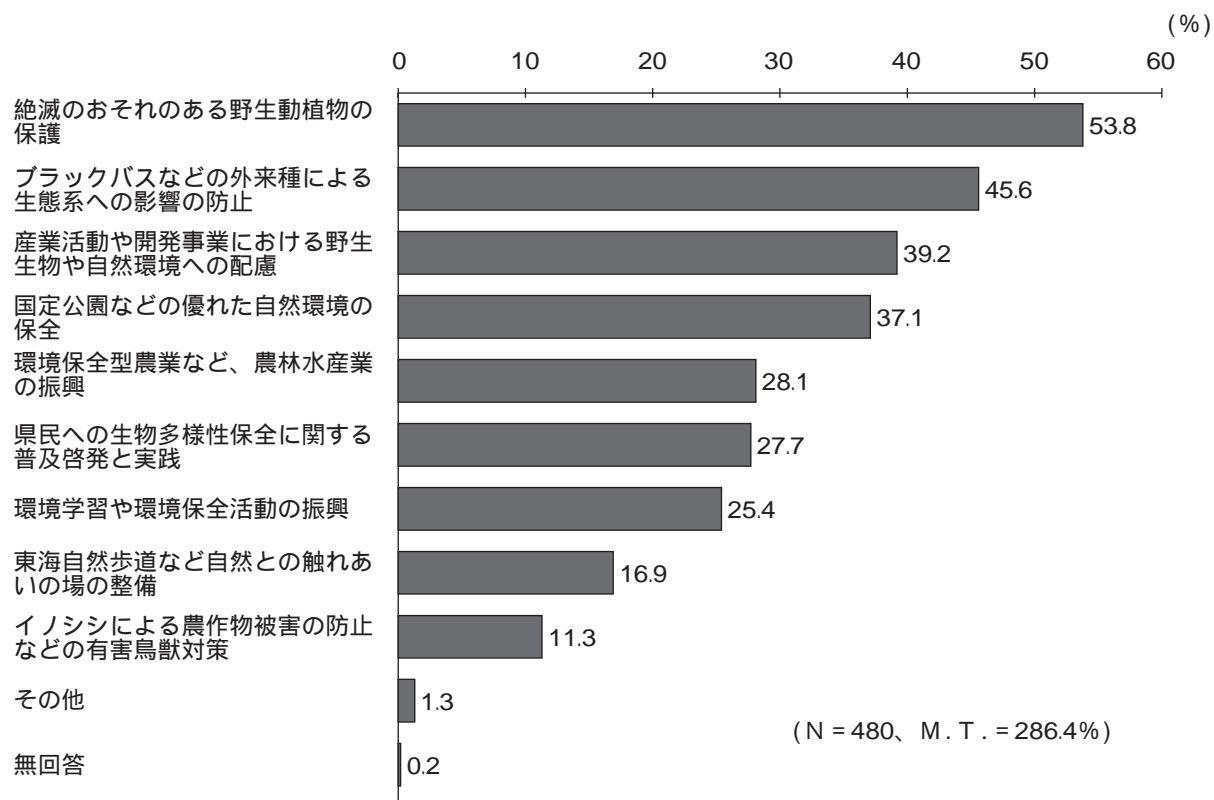


(地域別)



「知っていた人」と「聞いたことがある」を合わせた認知度は、48.3%にとどまっています。
今後、その開催の意義や内容についてキャラバンセミナーの開催等を通じて県民の皆様への啓発を進めていきます。
(環境部国際会議準備室)

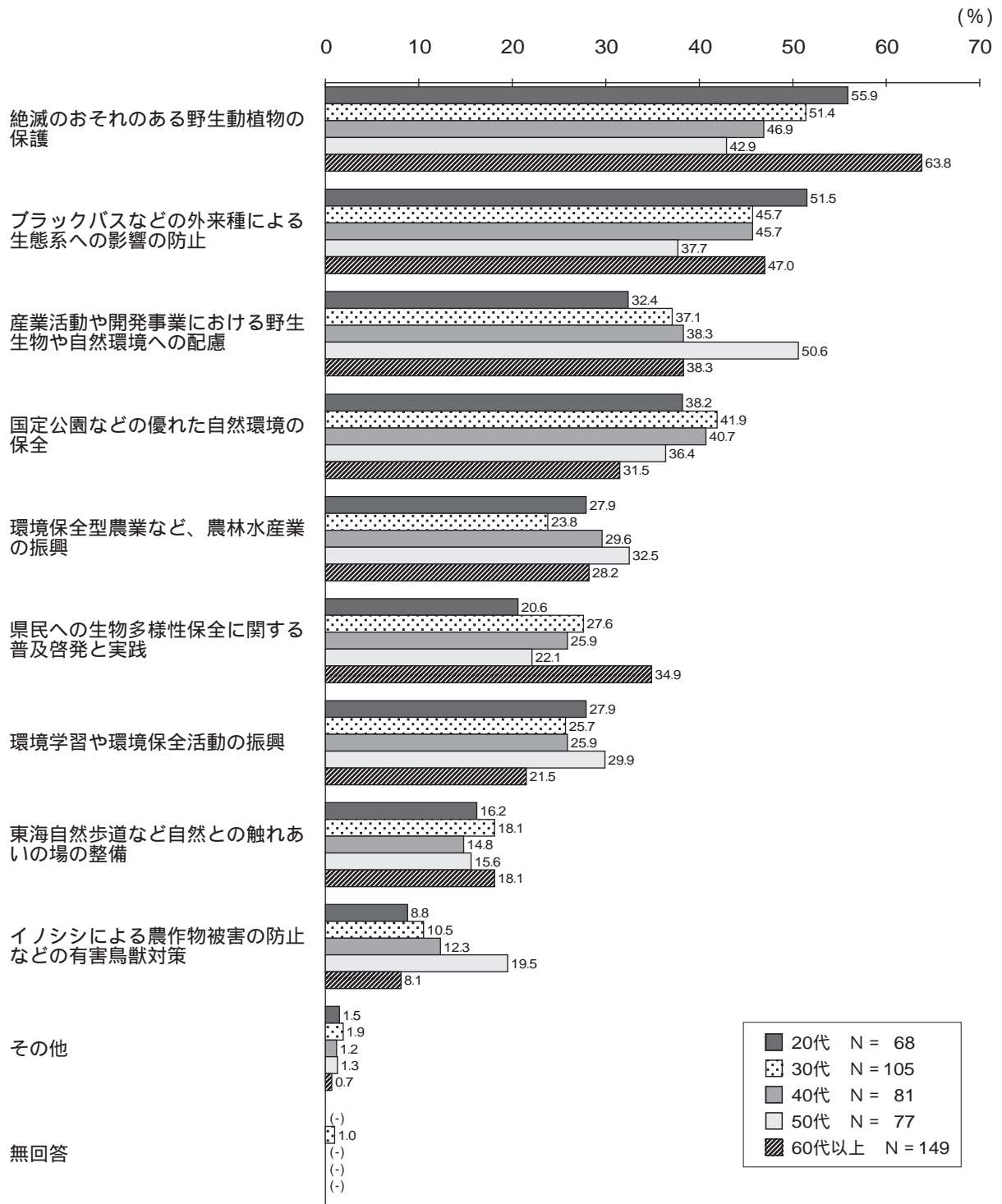
問3 愛知県では、COP10開催地にふさわしい生物多様性の豊かな地域づくりを推進するための行動計画として「あいち自然環境保全戦略（仮称）」の策定を進めていますが、その中で重点的に取り組むべきであると思うことは何ですか。（回答は3つ以内）



本県では「あいち自然環境保全戦略（仮称）」の策定を進めているが、その中で重点的に取り組むべきであると思うことは何かを尋ねたところ、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が53.8%、「ブラックバスなどの外来種による生態系への影響の防止」が45.6%、「産業活動や開発事業における野生生物や自然環境への配慮」が39.2%、「国立公園などの優れた自然環境の保全」が37.1%、「環境保全型農業など、農林水産業の振興」が28.1%などとなっている。

年代別にみると、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」と答えた人の割合は60代以上で、「ブラックバスなどの外来種による生態系への影響の防止」と答えた人の割合は20代で、「産業活動や開発事業における野生生物や自然環境への配慮」と答えた人の割合は50代で、それぞれ高くなっている。

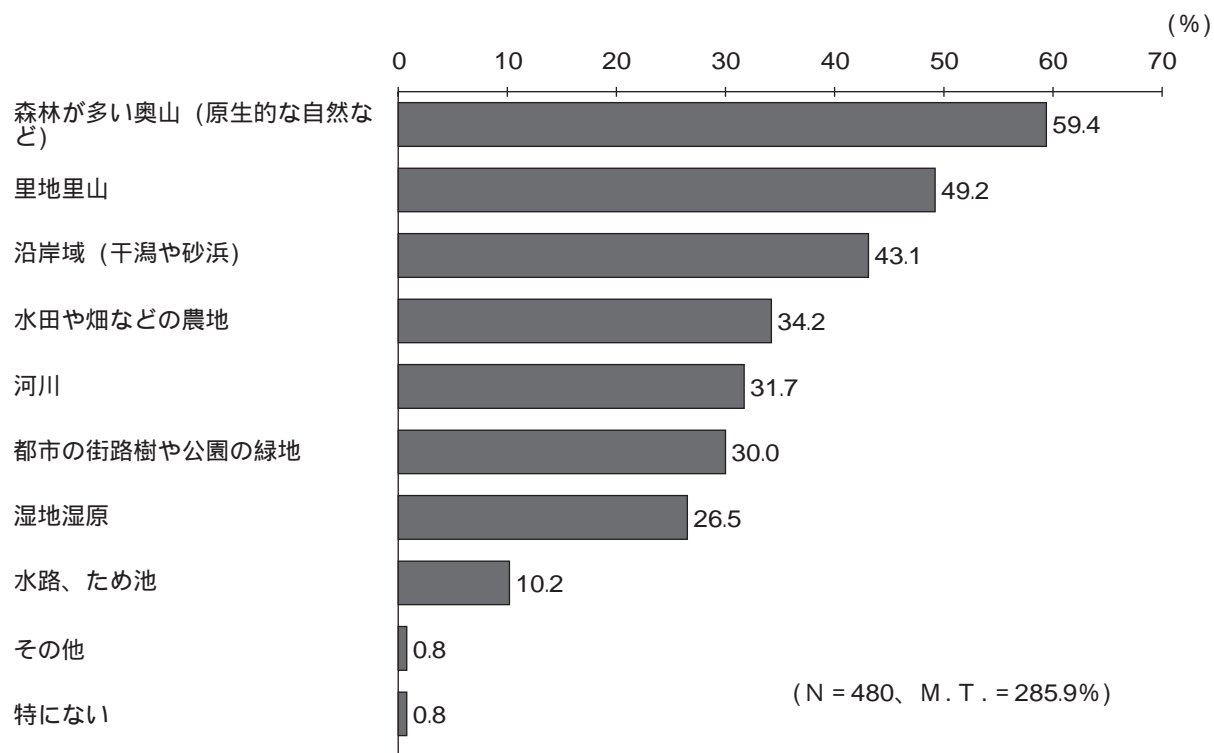
(年代別)



野生動植物の保護や外来種による影響の防止など生態系の保全に取り組むべきという意見が多く寄せられています。また、産業活動や開発事業における野生生物や自然環境への配慮をあげる意見も多く、経済活動が活発なこの地域の特性を反映したものと考えられます。（環境部自然環境課）

問4 本県は三河山間部から広大な平野部、その間の里地里山、更には半島がつくりだす内湾など、多様な自然環境が存在しますが、その中で特に保全すべきだと思う場所はどこですか。

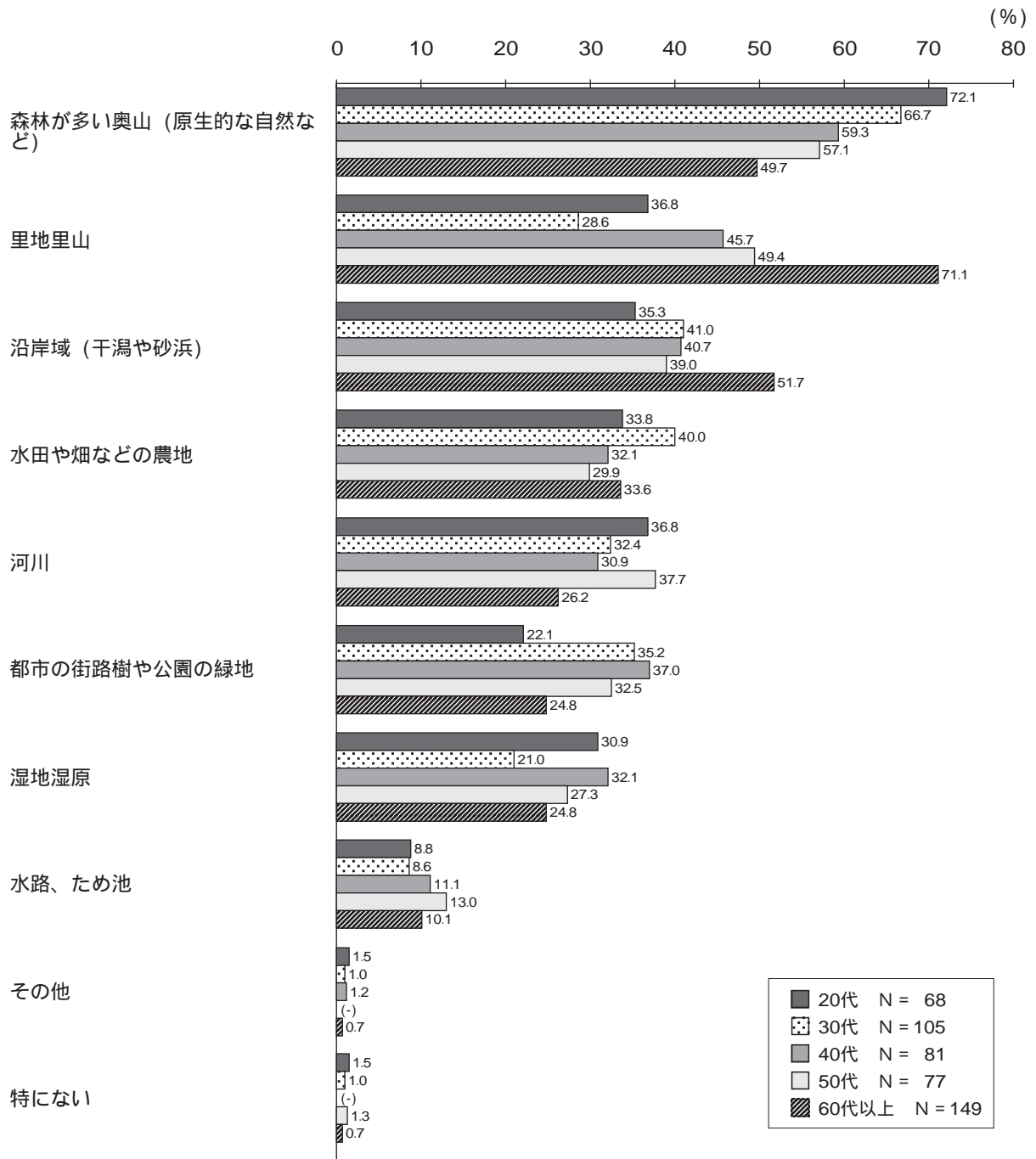
(回答は3つ以内)



多様な自然環境が存在するが、その中で特に保全すべきだと思う場所はどこかを尋ねたところ、「森林が多い奥山 (原生的な自然など)」が59.4%、「里地里山」が49.2%、「沿岸域 (干潟や砂浜)」が43.1%、「水田や畑などの農地」が34.2%、「河川」が31.7%などとなっている。

年代別にみると、「森林が多い奥山 (原生的な自然など)」と答えた人の割合は、年代が下がるほど高くなっている。また、「里地里山」、「沿岸域 (干潟や砂浜)」と答えた人の割合は60代以上で特に高くなっている。

(年代別)

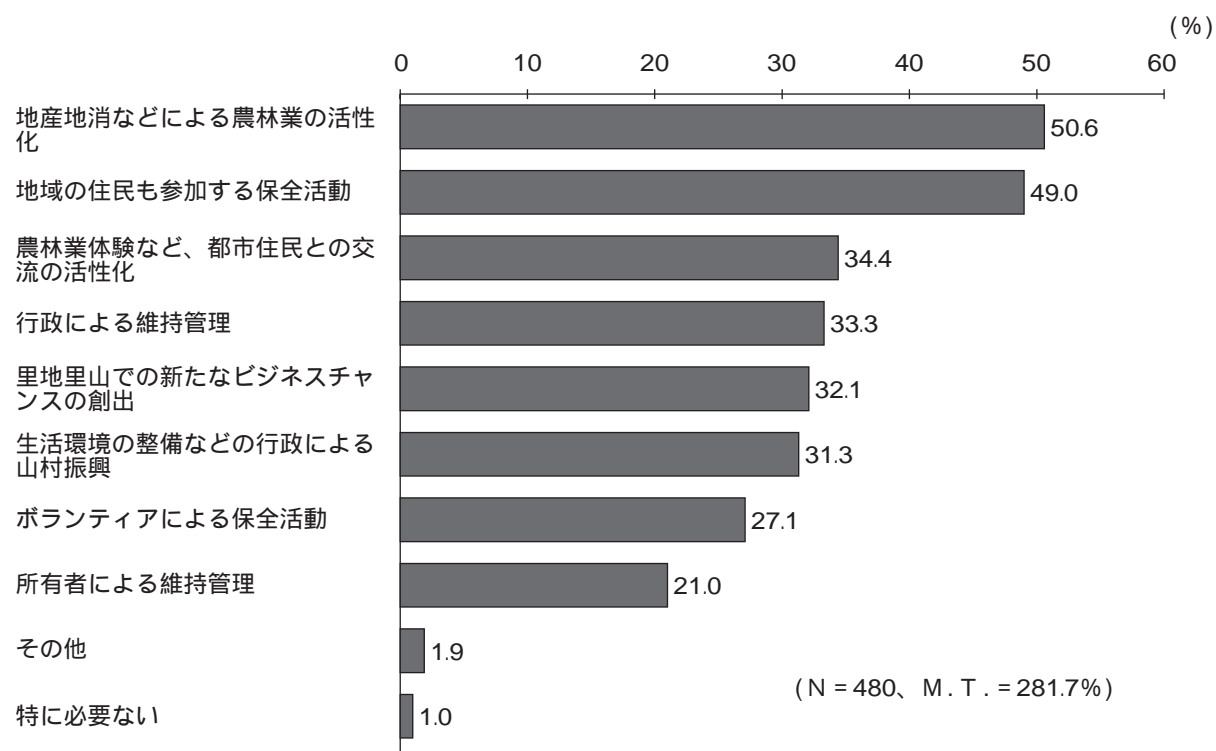


全体としては、より自然度の高い環境から順に保全が必要であるという結果になっています。人々の生活や環境を支える様々な機能を持っている森林と里地里山の保全が必要との意見が多く寄せられました。湿地湿原をあげた人は多くありませんが、シデコブシやシラタマホシクサなどこの地方に特徴的な「東海丘陵要素植物群」が生育する重要な地域であり、また、植生の遷移や開発により失われやすいことから、その大切さをPRしていく必要があると考えられます。

(環境部自然環境課)

問5 里地里山は、森林や田畑、草地など色々な自然環境がモザイク状に存在することにより、豊かな生物多様性が育まれています。最近では、都市化の進展や高齢化による森林の手入れ不足などにより荒廃が進んでいます。

里地里山を保全するためには、どのような取組が重要と思われますか。(回答は3つ以内)

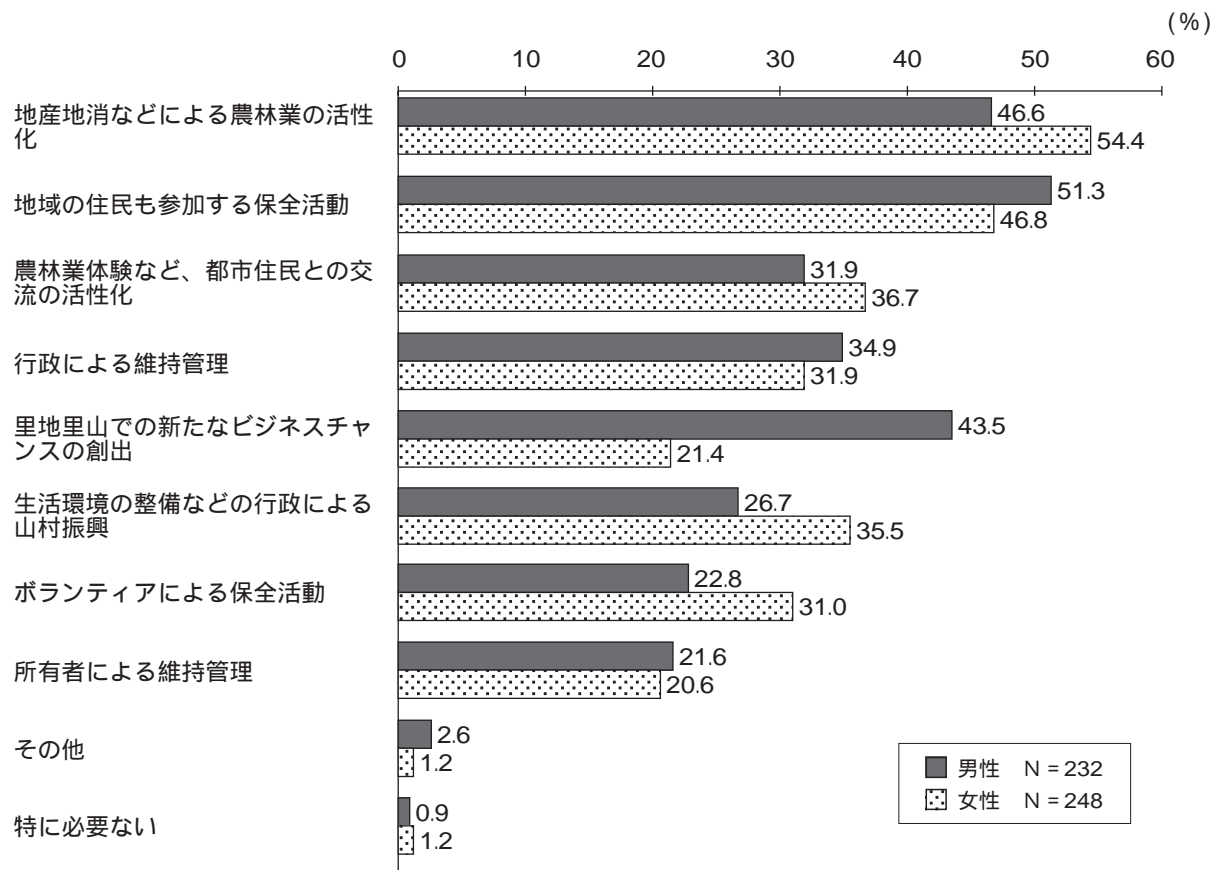


里地里山を保全するためには、どのような取組が重要と思うかを尋ねたところ、「地産地消などによる農林業の活性化」が50.6%、「地域の住民も参加する保全活動」が49.0%、「農林業体験など、都市住民との交流の活性化」が34.4%、「行政による維持管理」が33.3%などとなっている。

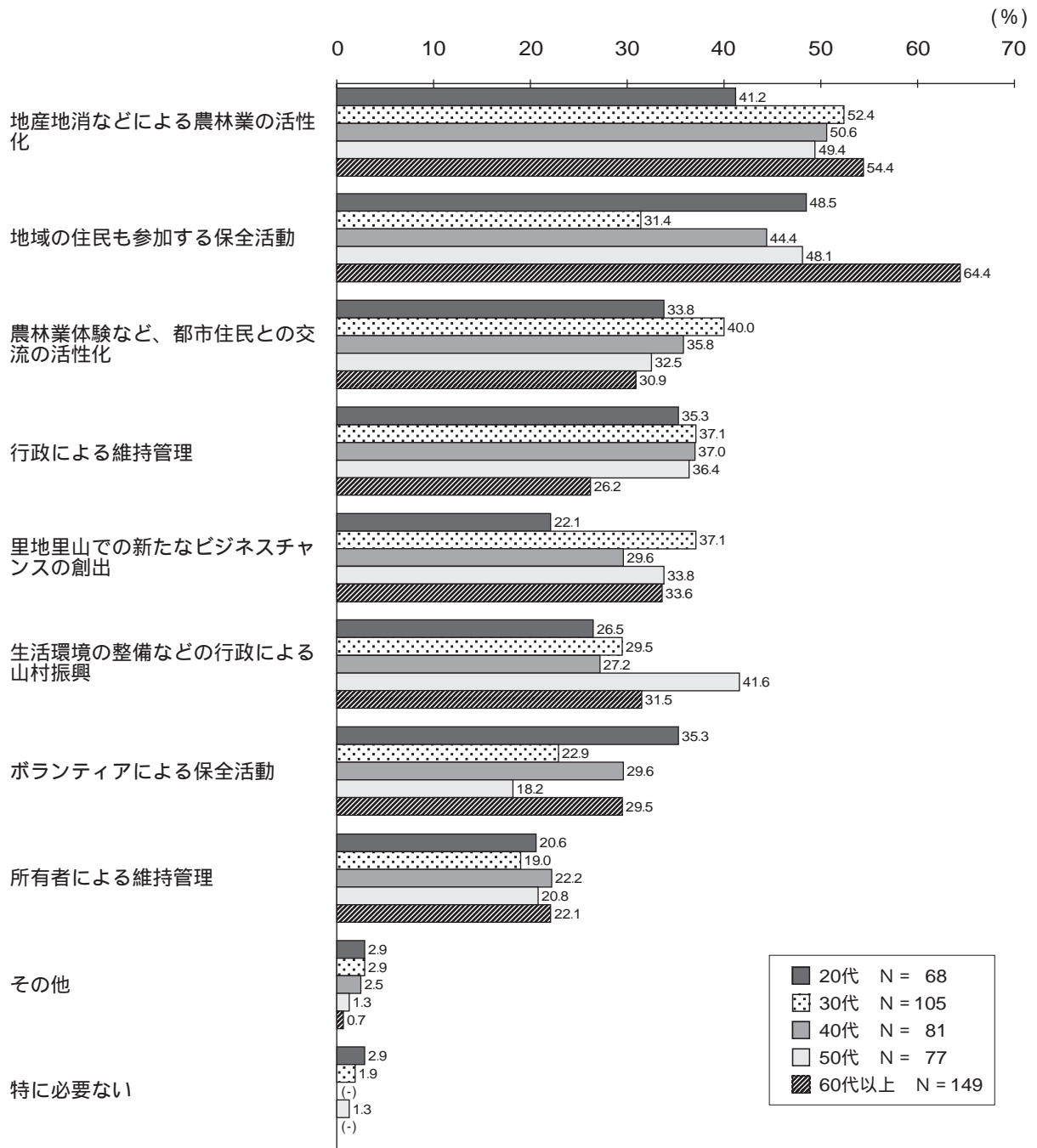
男女別にみると、女性では「地産地消などによる農林業の活性化」と答えた人の割合が最も高く、男性では「地域の住民も参加する保全活動」と答えた人の割合が最も高くなっている。

年代別にみると、「地域の住民も参加する保全活動」と答えた人の割合は60代以上で最も高くなっており、「生活環境の整備などの行政による山村振興」は50代で、「ボランティアによる保全活動」は20代で、それぞれ高くなっている。

(男女別)



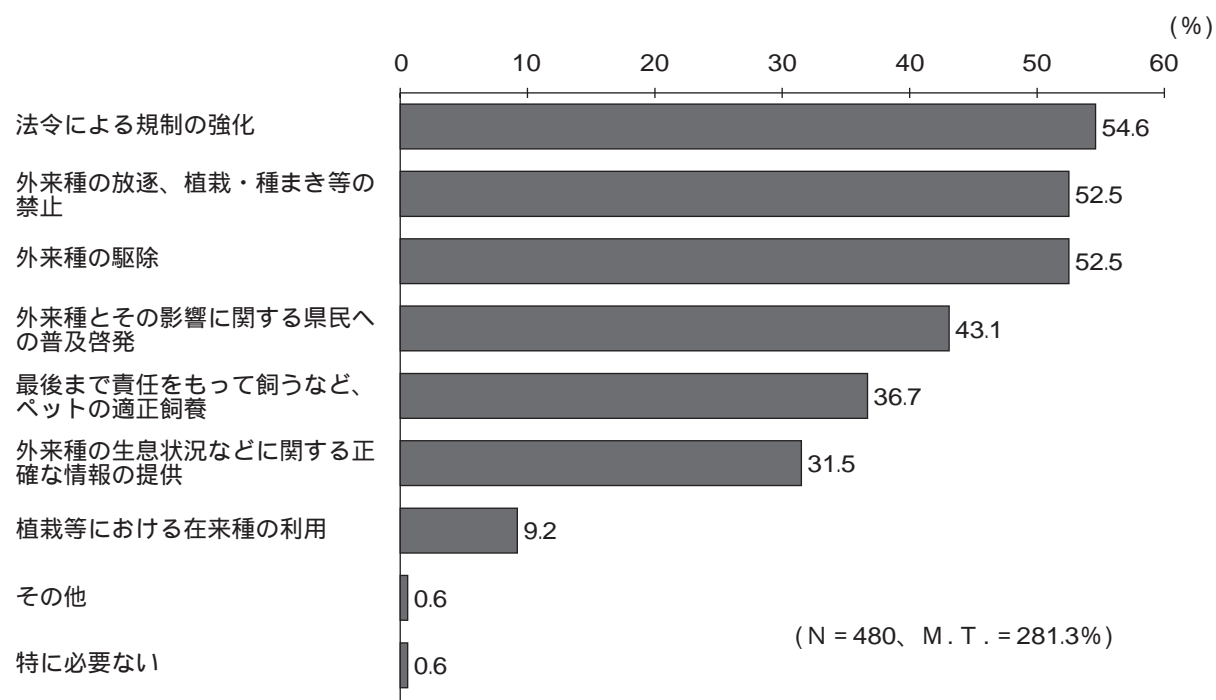
(年代別)



里地里山の保全には、里地の人々の暮らしと農林業などの経済活動が調和した営みが成立していることが大切であり、全体に農林業への関心の高さが表れています。また、地産地消の取組、地元と都市部の住民の積極的な交流などにより、地域ぐるみで守っていこうという意識の高さもうかがわれます。

(環境部自然環境課)

問6 ブラックバスやミドリガメなどの外来種が、本来その地域で生息する在来種を圧迫するなどの生態系に与える影響が問題となっています。外来種に対する対策として必要と思う取組は何ですか。(回答は3つ以内)

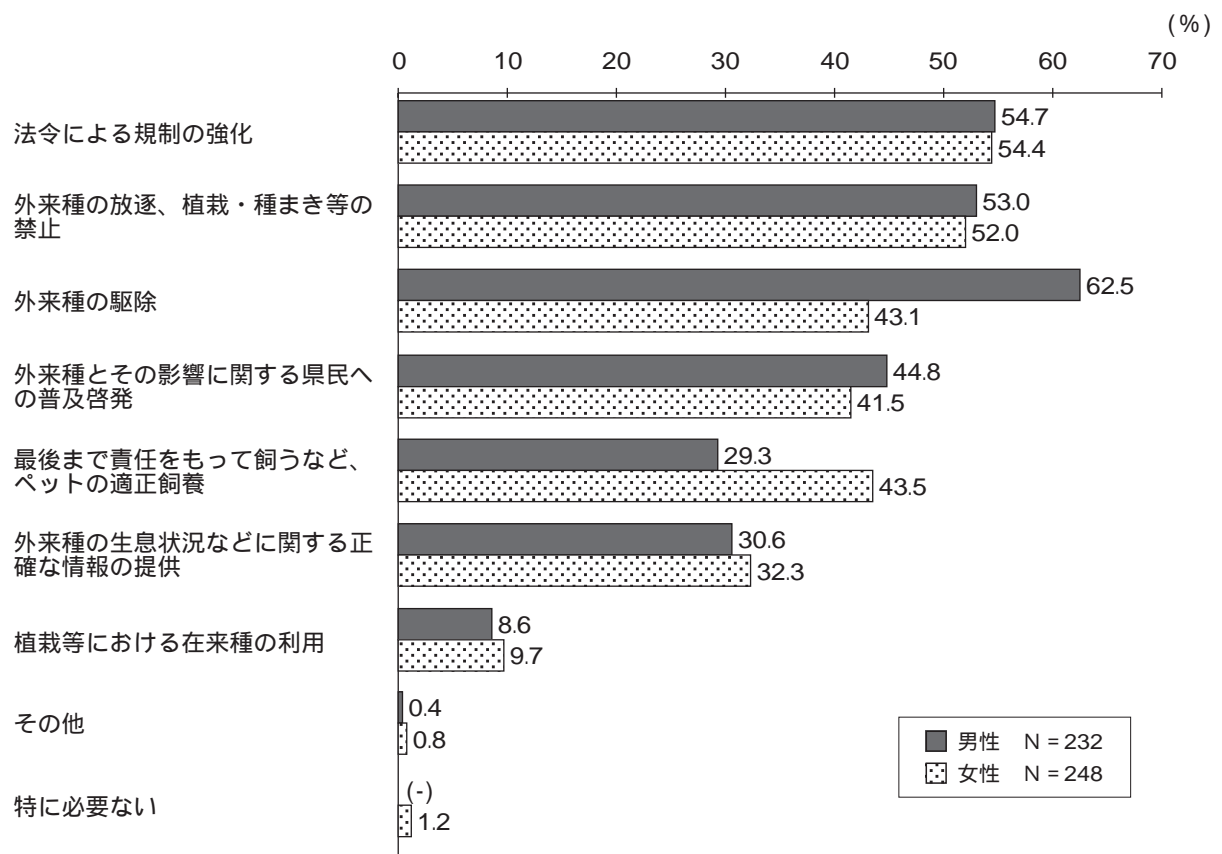


外来種に対する対策として必要と思う取組は何かを尋ねたところ、「法令による規制の強化」が54.6%、「外来種の放逐、植栽・種まき等の禁止」と「外来種の駆除」が52.5%、「外来種とその影響に関する県民への普及啓発」が43.1%などとなっている。

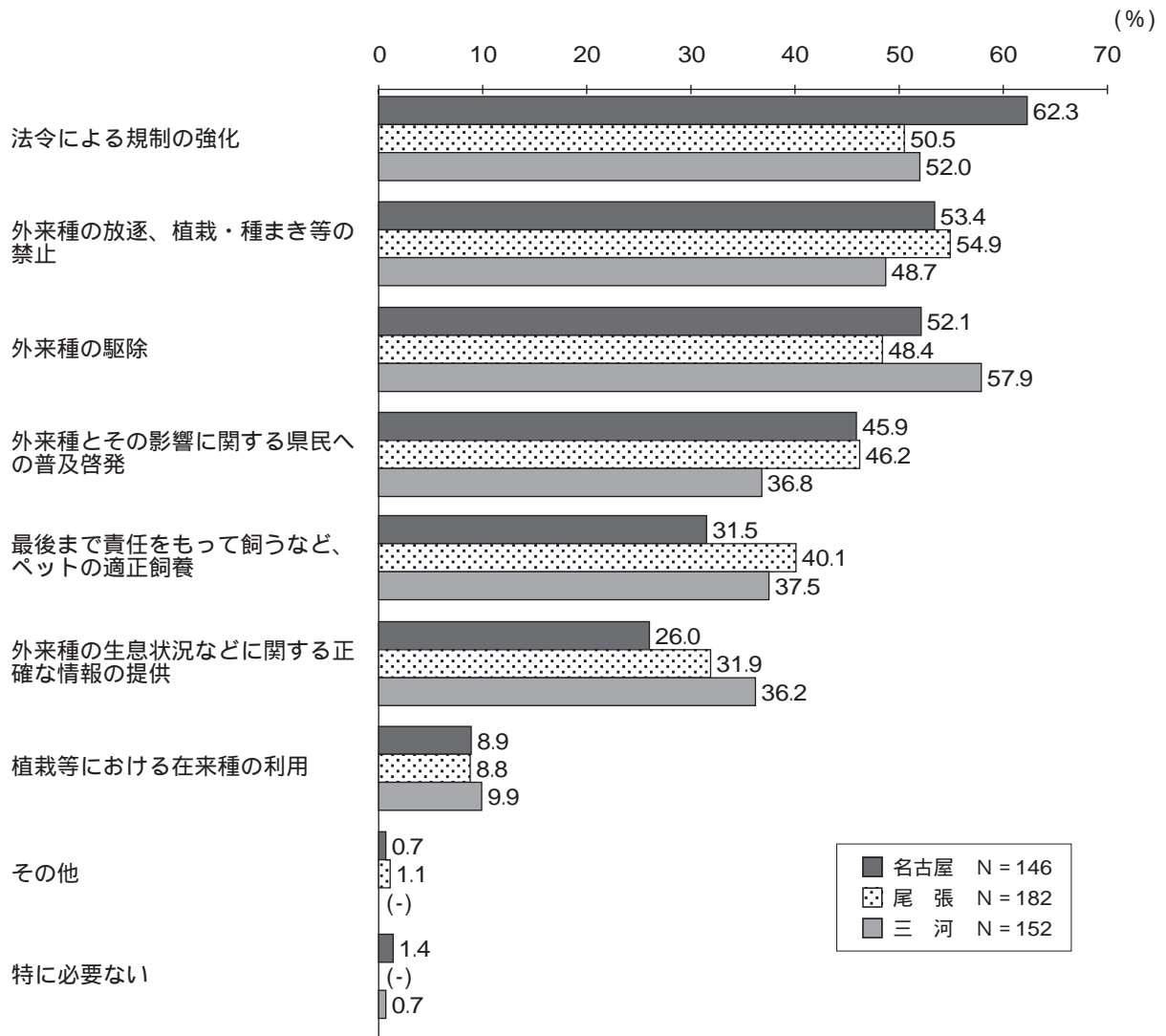
男女別にみると、男性では「外来種の駆除」と答えた人の割合が最も高く、女性では「法令による規制の強化」と答えた人の割合が最も高くなっている。また、女性では「最後まで責任をもって飼うなどペットの適正飼養」と答えた人の割合が男性に比べて高くなっている。

地域別にみると、名古屋地域では「法令による規制の強化」と答えた人の割合が、尾張地域では「外来種の放逐、植栽・種まき等の禁止」と答えた人の割合が、三河地域では「外来種の駆除」と答えた人の割合が、それぞれ最も高くなっている。

(男女別)



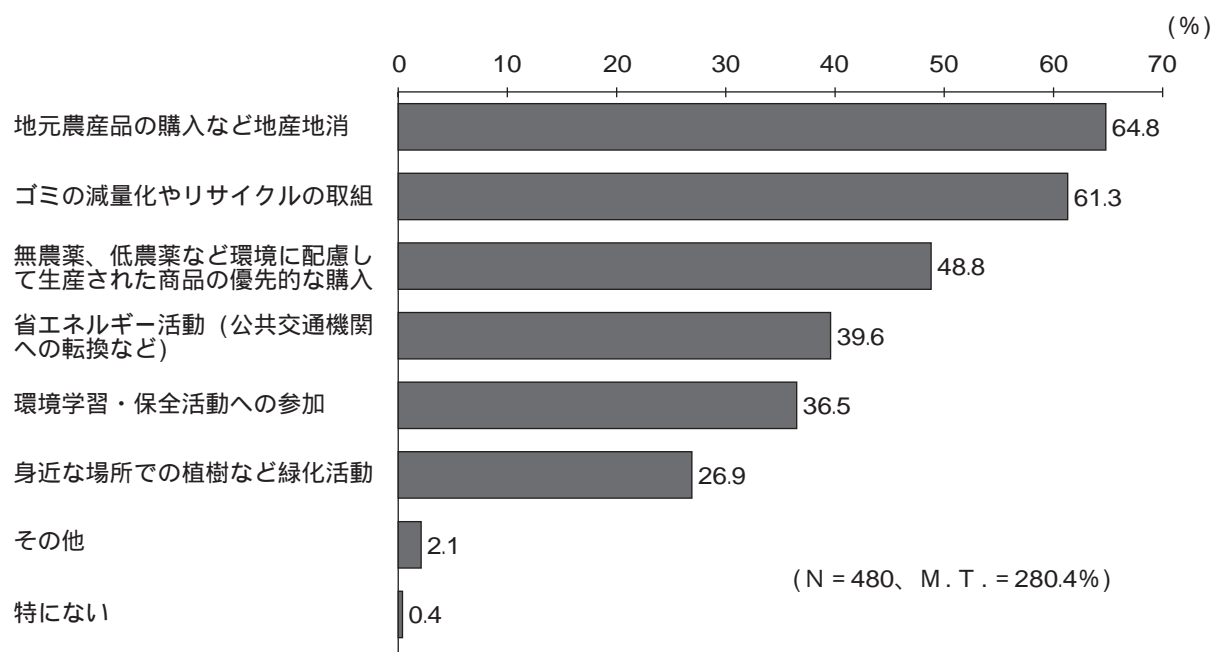
(地域別)



外来種については、その導入の経緯や生息・生育の実態が明らかでないこともあり、対策には難しい点もあります。しかし、外来種対策への関心は高く、また、人の気がつきにくいところで進行している問題である点からも、速やかな対応が必要であると考えられます。県民の皆様にも外来種の放逐禁止や駆除、責任を持ってペットを飼うなど、生活の中での外来種対策に心がけていただきたいと思います。

(環境部自然環境課)

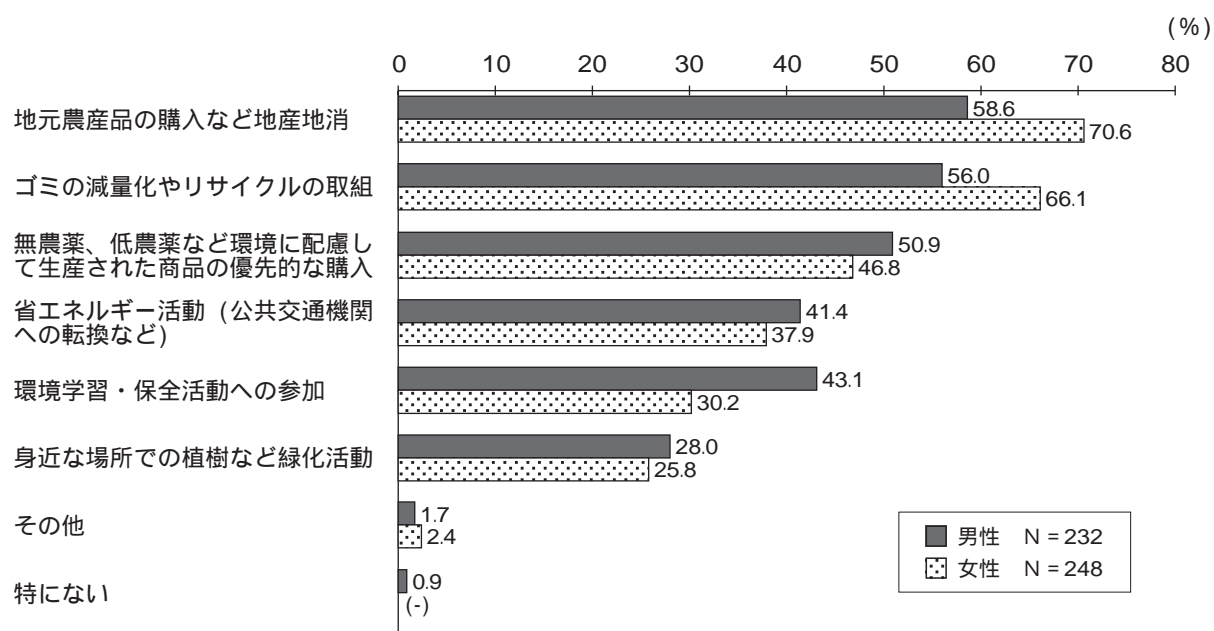
問7 今日の環境問題は生物多様性の危機も含めて、私たちの日常生活や社会経済活動に起因していると言われています。したがって、これらの問題解決のためには、県民一人ひとりが環境に優しい生活スタイルへ転換していくことも必要ですが、そのためにあなたが必要と思う取組は何ですか。(回答は3つ以内)



県民一人ひとりが環境に優しい生活スタイルへ転換していくために必要と思う取組は何かを尋ねたところ、「地元農産品の購入など地産地消」が64.8%、「ゴミの減量化やりサイクルの取組」が61.3%、「無農薬、低農薬など環境に配慮して生産された商品の優先的な購入」が48.8%、「省エネルギー活動 (公共交通機関への転換など)」が39.6%などとなっている。

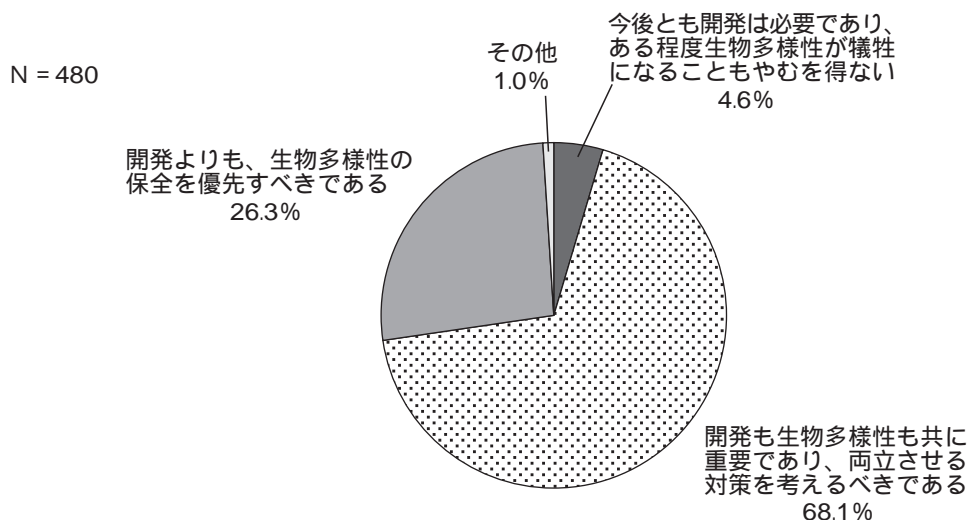
男女別にみると、「地元農産品の購入など地産地消」、「ゴミの減量化やりサイクルの取組」と答えた人の割合は女性で、「無農薬、低農薬など環境に配慮して生産された商品の優先的な購入」、「環境学習・保全活動への参加」と答えた人の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

(男女別)



生物多様性の保全に向けては、ゴミの減量やCO₂の削減のように県民一人ひとりの日常生活における取組が大切です。回答からも、地産地消、無農薬・低農薬商品の購入といった食生活など暮らしと結びついた取組を重視する考え方がうかがわれます。今後は、次のステップとして、地域における環境学習・保全活動や緑化活動などへの積極的な参加が期待されます。(環境部自然環境課)

問8 本県では、活発な産業活動が発展を支えてきましたが、その一方で住宅用地や工業用地への利用により、自然が失われてきました。開発と生物多様性の両立について、どのようにお考えですか。(回答は1つ)

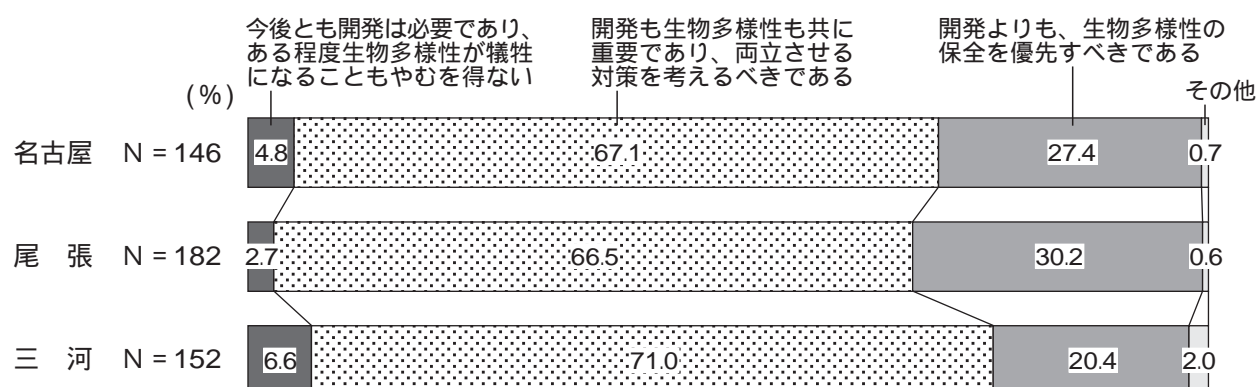


開発と生物多様性の両立について、どのように考えるかを尋ねたところ、「開発も生物多様性も共に重要であり、両立させる対策を考えるべきである」と答えた人の割合が68.1%と最も高く、「開発よりも、生物多様性の保全を優先すべきである」は26.3%、「今後とも開発は必要であり、ある程度生物多様性が犠牲になることもやむを得ない」は4.6%となっている。

地域別に見ると、「開発も生物多様性も共に重要であり、両立させる対策を考えるべきである」と答えた人の割合は、三河地域で最も高く、「開発よりも、生物多様性の保全を優先すべきである」は尾張地域で高くなっている。

年代別にみると、「開発も生物多様性も共に重要であり、両立させる対策を考えるべきである」と答えた人の割合は、30代と60代以上で高くなっており、「開発よりも、生物多様性の保全を優先すべきである」と答えた人の割合は40代と50代で高くなっている。

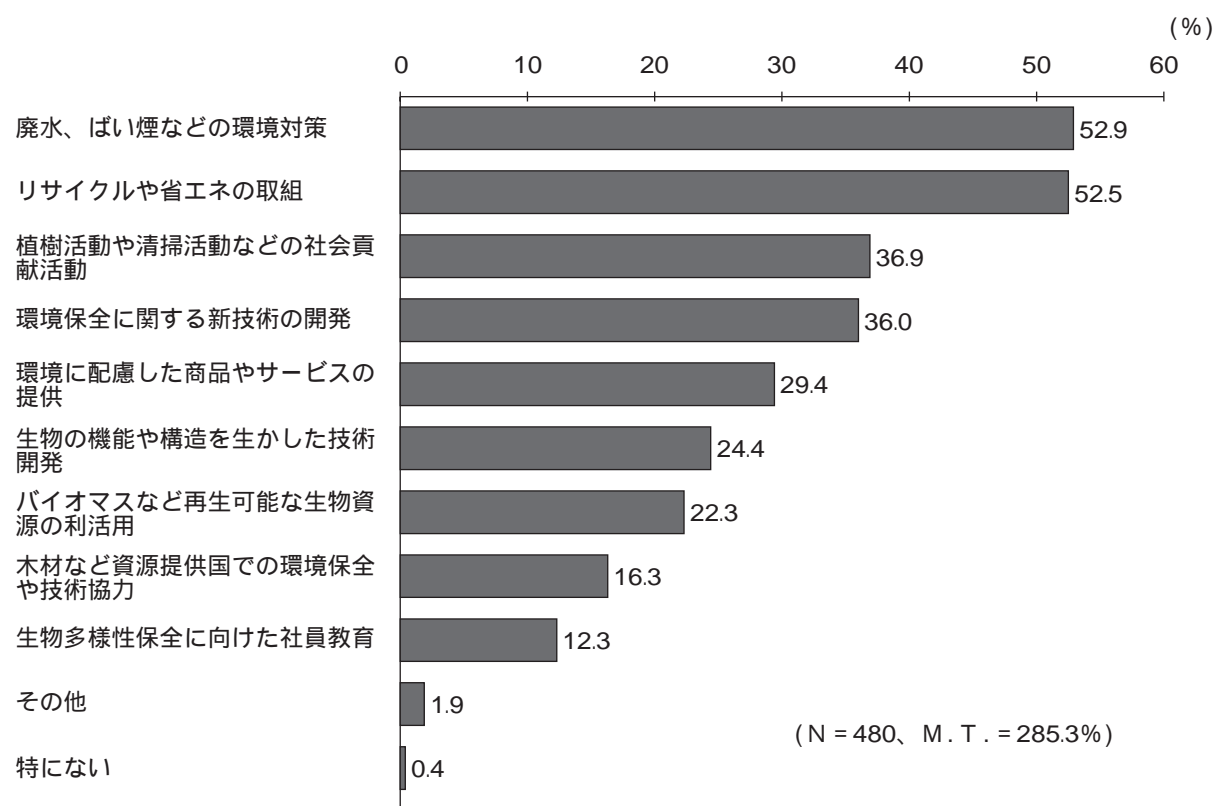
(地域別)



(年代別)



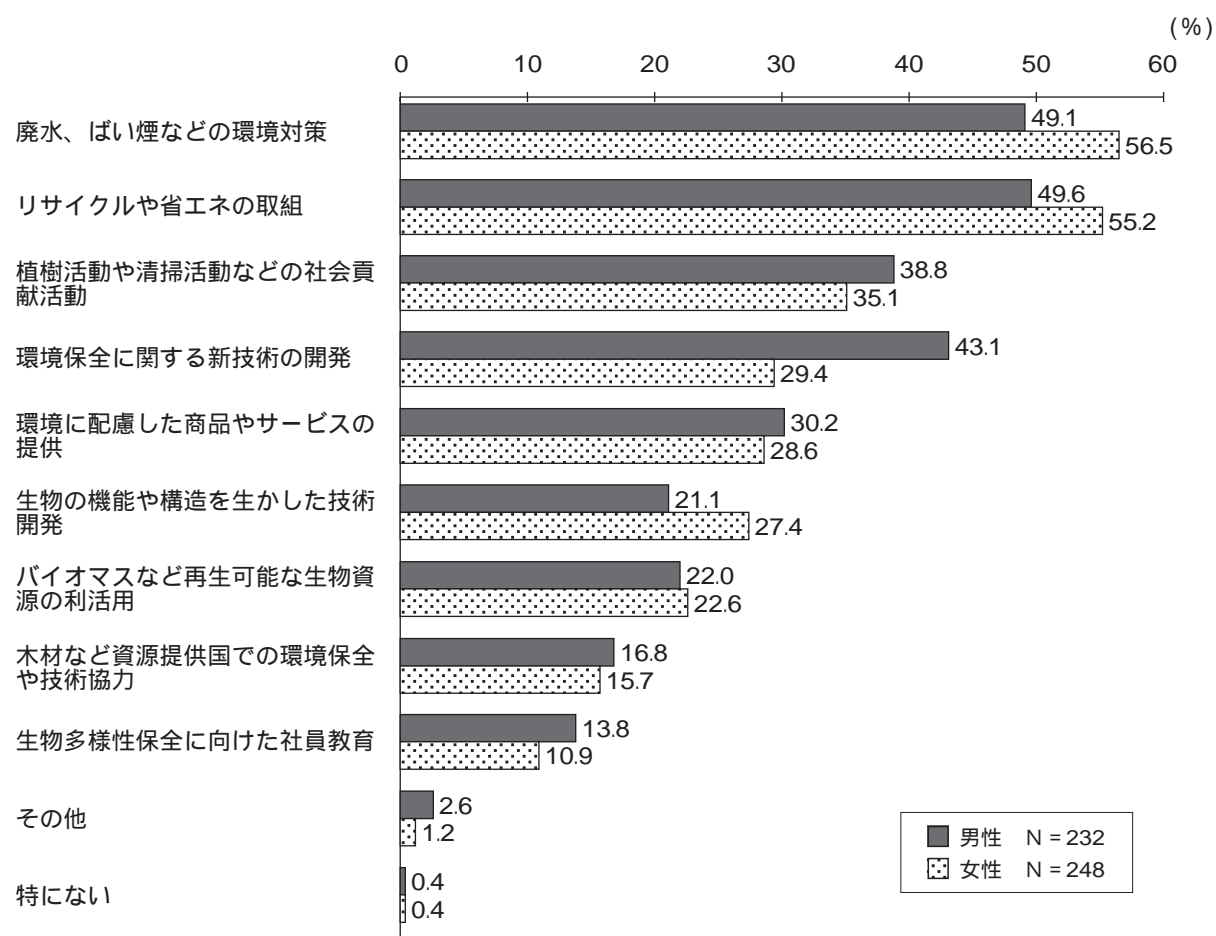
問9 生物多様性の保全のためには、社会経済活動を支える企業の役割も重要ですが、どのような役割を期待しますか（回答は3つ以内）



生物多様性の保全のために、どのような役割を企業に期待するかを尋ねたところ、「廃水、ばい煙などの環境対策」が52.9%、「リサイクルや省エネの取組」が52.5%、「植樹活動や清掃活動などの社会貢献活動」が36.9%、「環境保全に関する新技術の開発」が36.0%などとなっている。

男女別にみると、「廃水、ばい煙などの環境対策」、「リサイクルや省エネの取組」と答えた人の割合は女性で、「植樹活動や清掃活動などの社会貢献活動」、「環境保全に関する新技術の開発」と答えた人の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

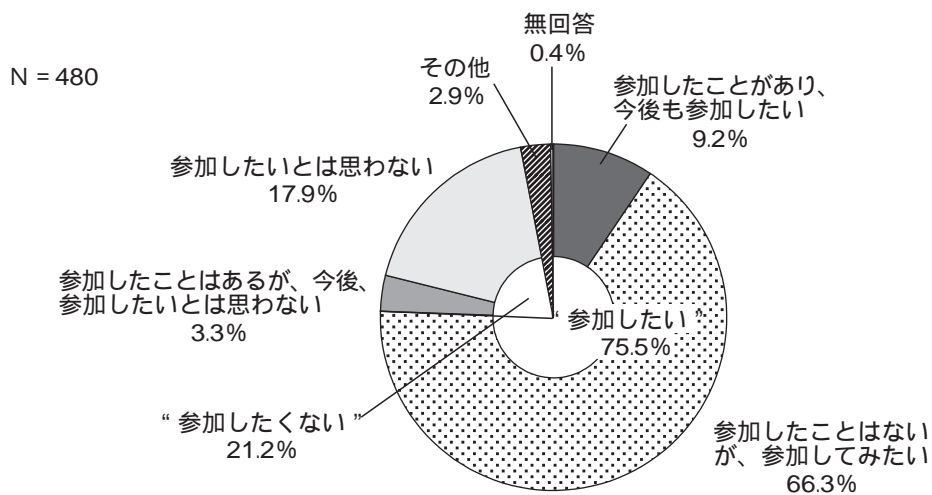
(男女別)



社会経済活動における企業の役割は大きいことから、企業本来の活動における廃棄物対策や省エネ対策など生物多様性への負荷を減らす取組への期待が高くなっています。「環境保全に関する新技術の開発」や「環境に配慮した商品やサービスの提供」を期待する人も多いことから、県民一人ひとりが消費者として、環境問題に積極的に取り組む企業を選択する行動が広がるよう、普及啓発に取り組むことが重要であると考えられます。

(環境部自然環境課)

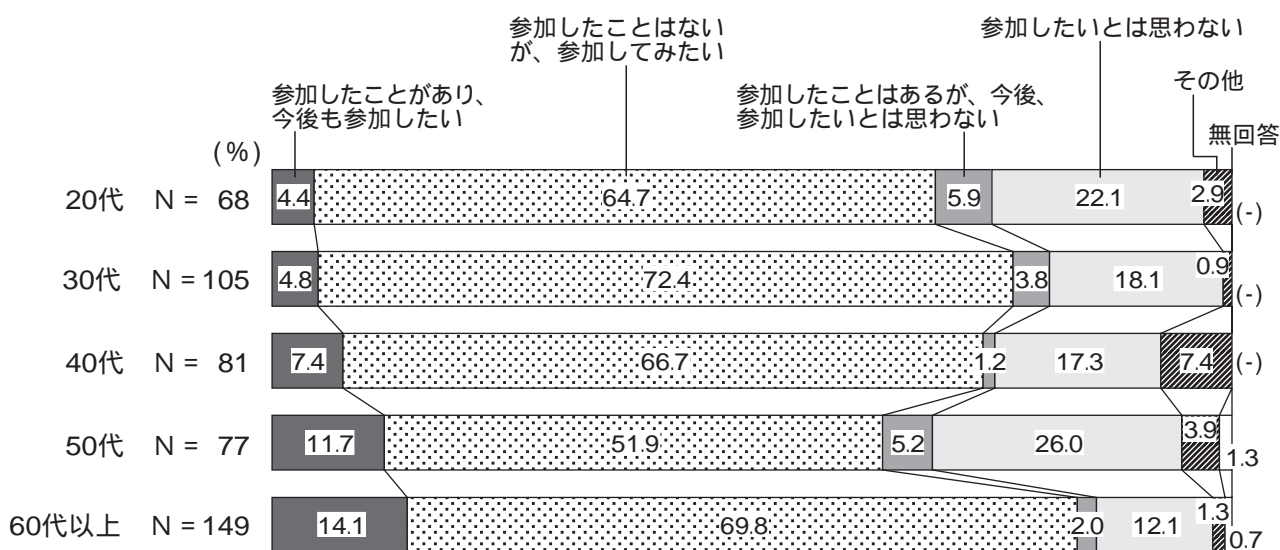
問10 本県の各所では、自然観察活動、里山保全活動、植樹活動、アカウミガメなど希少動物の保護活動など、様々な自然環境保全活動が行われていますが、これらの活動に参加したことがありますか。(回答は1つ)



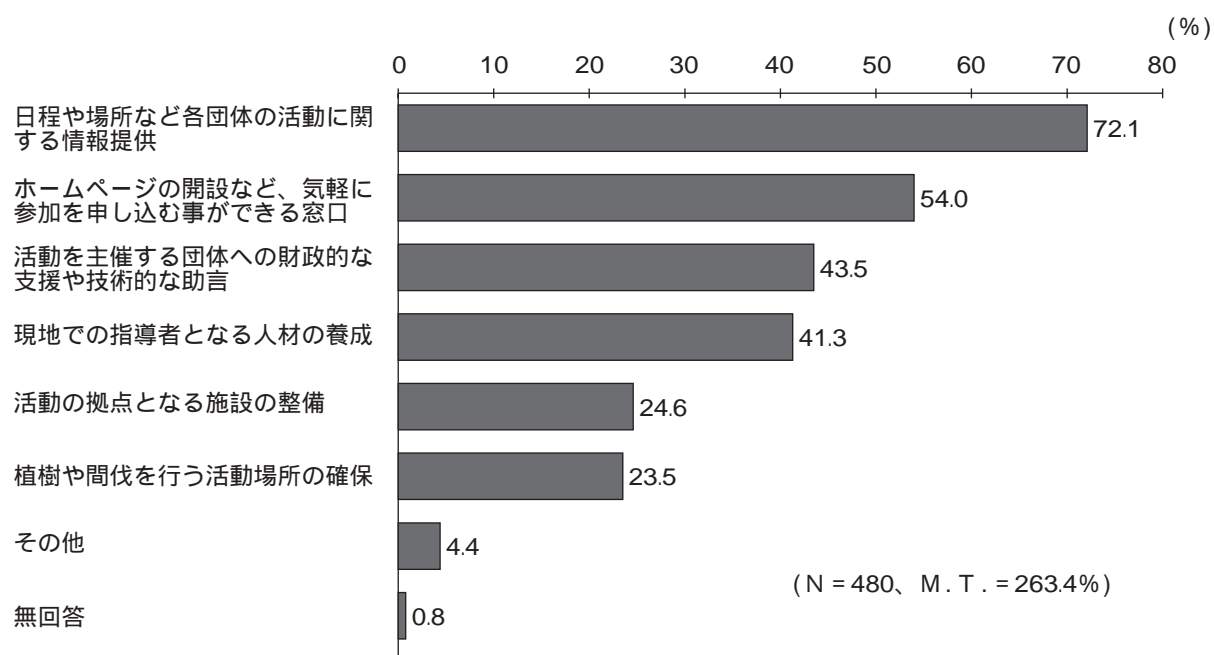
自然環境保全活動に参加したことがあるかを尋ねたところ、「参加したことがあり、今後も参加したい」9.2%、「参加したことはないが、参加してみたい」66.3%で、合わせた「参加したい」が75.5%に対し、「参加したことはあるが、今後、参加したいとは思わない」3.3%、「参加したいとは思わない」17.9%で、合わせた「参加したくない」は21.2%となっている。

年代別にみると、「参加したい」と答えた人の割合は60代以上で最も高くなっているが、「参加したことはないが、参加してみたい」と答えた人の割合は30代が最も高くなっている。また、「参加したいとは思わない」と答えた人の割合は20代と50代で高くなっている。

(年代別)



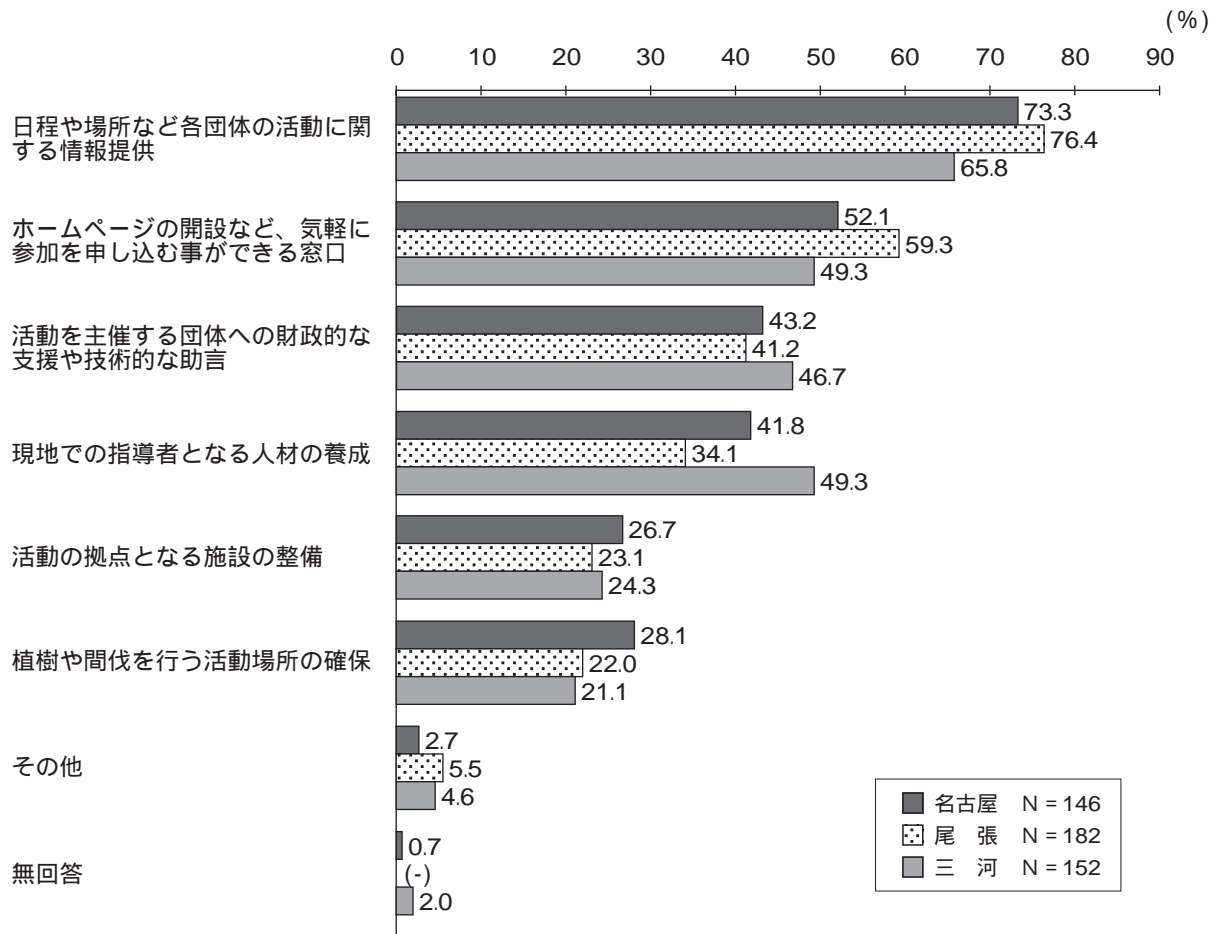
問11 自然環境保全活動に多くの方々に参加していただけるようにするためには、行政としてどんなことが必要だと思いますか。(回答は3つ以内)



自然環境保全活動に多くの方々に参加していただくために、行政としてどんなことが必要かを尋ねたところ、「日程や場所など各団体の活動に関する情報提供」が72.1%、「ホームページの開設など、気軽に参加を申し込む事ができる窓口」が54.0%、「活動を主催する団体への財政的な支援や技術的な助言」が43.5%、「現地での指導者となる人材の養成」が41.3%などとなっている。

地域別に見ると、「日程や場所など各団体の活動に関する情報提供」や「ホームページの開設など、気軽に参加を申し込む事ができる窓口」と答えた人の割合は尾張地域で、「現地での指導者となる人材の養成」は三河地域で、「植樹や間伐を行う活動場所の確保」は名古屋地域で、それぞれ高くなっている。

(地域別)



問10に対する回答から、保全活動に参加した経験を持つ方の割合は決して高くありませんが、参加したいという意欲や希望を持つ方は多いことがわかります。回答が多かった「日程や場所など各団体の活動に関する情報提供」、「ホームページの開設など、気軽に参加を申し込む事ができる窓口」といった気軽に参加できる仕組みづくりを、活動団体などとも連携して進めていきます。

(環境部自然環境課)

2 自由意見

生物多様性の保全について、ご意見・ご提案等があれば、自由にお書きください。

生物多様性の保全について、自由に意見を記入していただいたところ、269件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 「生物多様性」について	26
(2) COP10について	10
(3) 「あいち自然環境保全戦略」で重点的に取り組むべきことについて	61
(4) 特に保全すべき場所について	15
(5) 里地里山の保全について	13
(6) 外来種に対する対策について	21
(7) 生活スタイルの転換について	24
(8) 開発と生物多様性の両立について	35
(9) 企業の役割について	9
(10) 自然環境保全活動への参加について	26
(11) その他	29
合 計	269

(1) 生物多様性について

時代の変化とともに生物にも変化があるのは当然のことで、生存できなくなる生物があっても仕方がないのではないか。

子孫のために、緑豊かで昆虫や花や月や風が感じられる環境を少しでも永く残してやりたい。自分はふるさとで週末に農業をし、果樹を守っている。

重要とわかっていても用語が難しい。かみ砕いた言葉で子供からお年寄りまで分かりやすいように説明していく必要があると思う。

「県政だより」等広報媒体を通じて生物多様性に関する記事を掲載し、わかりやすくPRしてほしい。

一般の人には生物多様性もCOP10もなじみにくい。広く知ってもらうためには、易しい言葉と内容での普及活動があればよいと思う。

必要性は十分理解しているが、地域ではサル、イノシシ、カラスの被害で生活に困っている。

大切なことなのに知らなくて関心が薄かった。言葉は難しいが、里山の手入れをしたり、干潟を

守ったり、川を清掃したり、地域で個人やボランティアがやっていることだと思う。

「生物の多様性の保全」という言葉は、はっきり言って難しい。実際に住民に何を求めているのかをもっとわかりやすい言葉で書くべきだと思う。

子供には、小さいうちから教えてあげたい事がたくさんあるので、ごみの分別のように生活を通して当たり前の様に、環境に配慮できるシステムが欲しいです。

生物の多様性は大切ですが、それはあくまで生物側に立っての大切さであり、人間の価値観からの大切さであってはならないと思います。人間自体永久に地球上で生き続けることはできないのです。すべてあるがままに任せるのが自然だと思います。

ダイバーシティ＝多様性、サステナビリティ＝持続可能性等、英語を直訳した言葉が多く親近感が湧かないので、本当の「日本語」にした方が自分たちのことと思しやすい。

人間は自然環境と共生せずには生きていけないと思います。衣食住、そして精神的な面においても自然の癒しが必要です。県内に限らず皆がその重要性をもっと認識できるようにできるとよいと思います。

(2) COP10について

COP10に向け、県民の意識を向上させ、いろいろな機会を捉えてPRし、成功に導くために啓発活動を進めることが大切である。

COP10成功は、愛知県の動き如何であり、県民への啓発、イベント等を積極的に推進してほしい。

県民が生物多様性の現状、課題、方向性をどう認識しているかが大きな問題になる。ホームページ等で気軽に参加できるシステムの構築が必要だと思う。

COP10は生物多様性への関心を高める良い機会になる。まだ、認知度が低いので講演会やシンポジウム等を通じてPRに努め、開催の機運を県全体で盛り上げてほしい、

COP10開催までに、なにかしらの成果を目に見える形で表せたらいいと思う。その為に、積極的に県民が参加できる場を作って欲しい。

(3) 「あいち自然環境保全戦略」で重点的に取り組むべきことについて

地方公共団体が取り組むことは重要である。財政が伴わなくても、行政が主導し、サポートすることで個人や集団の力を発揮させることもある。

まずは、行政がリーダーシップをとってアクションを起こし、少しずつ県民が行動できる環境を作ること、これが「生物多様性」の豊かな地域づくりを推進すると考えている。

崩れかけている生態系を守ることは、私たちにとっても住みやすい環境につながることにすると

思う。県がリーダーシップを取り具体的な行動を進めてほしい。

長期的な計画に基づいて、無理のない活動方針をまとめてほしい。

少しずつ良くなっていくよう、市民が協力できる計画を作ってほしい。

生物多様性の保全には、行政だけでなく地域の住民と全体で活動していかなければいけないと思う。

その地域の特徴を活かした環境づくりが大切だと思う。

それぞれの地域での県民一人ひとりの活動が自然環境を保全していくと思う。市町村でそれぞれ目標を決めて取り組む必要がある。

今、野生生物の生態をよく調べて、未来に引き継いで行ってもらいたい。

小さい頃からの教育が大切で、「川には魚が住んでいる。山には食べられる実がなる木がある」等、身近な位置づけが必要かと思う。幼児から家庭・学校・地域へとつながる環境教育に力を注ぐ必要がある。

未来を担う子供たちへの環境教育が重要だと思う。学校で自然とふれあう機会を増やしてほしい。早くから地域でバックアップし、生物多様性の意味を考えたり、活動にも参加させ、学校でも取り組んで行くべきである。

小中学校の教育に取り入れていくことで、時間はかかっても意識付けをしていくことが大切だと思う。

農山漁村の活性化は、生物多様性の保全と同時に、食の安全・安心につながる。

農業の後継者の育成や、後継者のいない高齢者の支援策を考えてほしい。

これからは、環境に優しい新産業の育成を望みたい。

公園・道路や河川改修に地元の木や植物を使用してはどうか。

美しい環境を残すために、一人ひとりが身近にできることから始めたい。植樹活動が発展すると良い。

一般家庭での植樹活動の支援をしてはどうか。CO₂の吸収や気温を下げ、景観向上につながる。

農家が何か作っても、サルやイノシシ、カラスにやられてしまう。一日も早くこれらの対策を、法改正を含めて進めてほしい。名古屋市内ではわからないだろうが三河では困り果てている。

保全だけでなく、有害鳥獣の増加は食い止めるべきだと思う。畑を荒らし作物が作れなくなっている。

有害鳥獣等個人では限界のある問題には行政が取り組んでほしい

愛知県の環境への取組は、多面的で種々の点で活発に行われているが、未だ不十分である。

自然環境の保全には、時には法令による規制も必要ではないか。

出口をしっかりと確保しておくことが重要と思う。街に緑をとということで、街路樹が多数植えられたが、管理や落ち葉の問題で、最近次々と切られており、残念だ。また落ち葉も単に可燃ごみとしてしか処分されておらず、堆肥にする等の工夫がほしい。

「生物多様性」の概念が未だ県民全体に浸透していないと思われます。県は更に一層の情報提供をしていただき、県民の活動に対する財政支援をお願いしたいと考えています。

市町村レベルでの教育活動が重要なのではないのでしょうか。

COP10開催を機に広く県民にPR活動をし、イベント等での啓蒙活動が望まれます。まだまだ県民の意識は薄く感じる。将来を託す子供・学生等にも教育の現場で活動のプログラムを作り生物多様性の大切さを教えていく。

行政は企業と市民の調整役であって欲しい。

これからの時代は、生物多様性に目を向けざるを得ない時代となってくるのは必然であり、その中心として日本だけでなく、世界へもその名を轟かすような地域となっていけるように、行政・市民・企業が一体となって、全力で取り組んで行くべき課題だと思います。

人間が、人間以外の生物をきちんと認める。教育や体験活動が、未来につながると思います。

「生物多様性の保全」に関わる県の活動が、ほとんど身の回りで感じられません。宣伝不足や宣伝方法が画一的で、県民の生活に密着していない感があります。

「生物多様性の保全」について、国、県、市町村いずれの活動も十分ではない。行政のリーダーシップのもとで、国民が誰でも参加しやすいシステムを作り、官民一体となって推進することが重要と思う。

結局、種を絶やさないようにするには、良識の育成が必要だと思います。そのために、何ができるかということですが、学校の総合学習の時間等を利用した、自然観察会等を開くことも一つの方法かも知れません。

市民の理解を得るためにはPRだけでなく、参加させることが必要であり、あらゆる行事に参加できるような組織、PR体制が必要である

海上の森センターの積極的活用で、県民へ「生物多様性の保全」の啓発を。

産業廃棄物の投棄等、環境破壊とならないような、監視活動を推進して頂きたい。

遙か昔から、人間は自然と共存共栄をしてきたのに、ここ200年ぐらい前から、自分たちの都合がよい開発をし続けた「代償」が今、回ってきていると思う。地球環境を守るということは、私達自身の生活を守るという観点から、個々や民間でできない活動及び規制等を、行政が積極的に行って欲しい。

愛知県にも絶滅危惧種に指定されている生物がたくさんあります。一刻も早く保護される対策を取って欲しいと懇願します。

長期的スタンスで継続をして欲しいです。一般市民はもとより、関連する専門家なら自己啓発的参加がしやすい受け入れ環境を整えて、長期的(20年～50年)な活動計画を明確にし、継続実施してゆく必要があると思います。

生物多様性の保全は一向に進展がなく、悪化する一方で心配です。国や県も保全するといいいながら、みずから自然破壊を伴う開発を続けているのに矛盾を感じます。県が真剣な態度を見せないかぎり、県民はやる気を失うばかりだと思います。

環境保全が盛んに叫ばれているが、その一方で山は切り崩され、開発が進む地域をよく目にする。そういった場所では生態調査等はされず、開発にとりかかっているように思う。生態系の調査や保全についてはかなり不完全である。

義務教育、市民セミナー等において、学習できる教本、教育の場、講師の養成が早急に必要と思う。これらの施策は、公の機関、県、市町村の施策として推進することであると思う。特に、教育の観点からみると教育委員会の重要な責務であると思う。

日本には世界的な競争力を持つ優秀な技術陣を抱えるメーカーが多数存在します。もっとそのような力を環境に振り向けるための支援策を検討していただくのが、行政に求めたい大きな役割です。

(4) 特に保全すべき場所について

藤前干潟等すばらしい自然環境を大切に、次世代に残してほしい。

田畑がどんどん住宅になっていくのが、子供の将来を考えると心配である。

田畑の遊休地をなくすことや、ため池を保全することが大切だと思う。

もっと農業を見直し、田畑を復活させるべきだと思う。農業がゆたかになれば自然も元にもどるのではないか。

公園の一角や遊休地等を利用し、植物や小さな生き物が生息できるような、小川、小さな池、土手を整備してはどうか。

森林は、都市部の住民にとっても大きな役割を果たしている。維持のための手入れが重要であるが、人里離れていくだけでも大変である。行政が強いリーダーシップを取る必要がある。

河川に関する環境整備を進めるべきである。上流よりも下流に力をいれるべきではないか。

河川を放置すれば生物多様性に大きな支障を来す。きちんとした管理体制を確立するべきだと思う。

一級河川の水害対策は別として、中小河川の堤防をコンクリートで固めない、また農薬を減らしてメダカ、フナ、ドジョウ等が増えるようにすれば、住みよい愛知になる。

生物多様性を保全する区域では、人工物を作らずに自然のまま管理することがベストだと思う。

保全のための施設整備には、環境を破壊する場合がありますので、慎重に進めなくてはならない。

いろんな海を潜っているが、海の中はやはりよくない方向にある。希少野生動植物は必ず保護すべきである。が、一個人ではできることが限られてくるので、多くの人に訴えかけることから始めたらどうか。

(5) 里地里山の保全について

昭和20、30年代には、自然が一杯で里山は当たり前風景であった。経済や産業の発展でこれらがほとんど失われてしまった。

里山に住み、日頃から自然を守ってくださる方への経済的な支援が必要だと思う。

里山の保全は、そこに暮らしている人の意見を聴くことから始めてほしい。押しつけでは続かな

い。

里地里山は過疎化が進んでいて、近隣地域からの応援が急務だと思う。生活維持が可能になるような支援策を取るべきだと思う。

中山間地における里地里山の保全が必要と思われる。地産地消、新たなビジネスの創出等農林業の活性化を図るために行政の果たす役割が重要と思われる。

すでに開発された場所で、住みやすい環境を作ることが必要ではないか。今ある里での生活が不便なら、食料宅配等企業が協力し、供給することで新たな開発を減らすことはできないだろうか。

里山保全活動で、子供たちに自然と共存することの大切さを教えたい。

里山の保全には、森林を手入れすることが必要だと思う。

里山は何も特別な場所にある訳ではありません。身近にありすぎて、里山の素晴らしさ、山の恵みを愛でる楽しさを知る機会が少ないと思います。それを子ども達に伝えたいです。

里山の場合、人が入って管理しなければならないので、もっと山地への定住者を増やす政策を実施して欲しいと思います。住む場所については帰農者用施設を住宅へ転用する、空き家を活用する等で確保できると考えられるので、果樹栽培等山で働く機会を作って欲しいです。

江戸末期の里山システムは、世界で唯一完成された文化的な生活と自然との共生、それを海外の最先端の専門家は知っているのに日本人が知らないのは恥ずかしい。

里山の活性化に関しては、色んな立場で苦しむ子供達の環境を変える場として、今以上にどんどん有効活用していく事ができるのではないかと思う。1つの点だけではなく、多方面（保全の為にあらゆる箇所での）での有効利用や見直しが同時進行で必要だと思う。

(6) 外来種に対する対策について

外来種の影響について、広報を通じて広く啓発が望まれる。

外来種は問題だと思うが、県内でどういう種がいて困っているのか状況がわからない。

よく公園に行くが、アカミミガメやアメリカザリガニ、カダヤシが本当に多く、日本古来の生物がほとんどいないことに驚く。何とか日本の生き物を助けていきたい。

人間に捨てられ繁殖したブラックバス等の駆除には反対である。個体にとってはそこが故郷。人間の都合で生態系を崩さないために、個人のモラルを徹底することが必要だと思う。

ペットを飼う人の意識やモラルを向上させていくことが必要だと思う。

売る人や飼う人がもっと責任を持ってほしい。ジャンボタニシ等をもっと駆除すべきである。

外来生物を安易に飼ったり、捨てたりしないよう、小学校等のカリキュラムで教育していくべきである。

危険な動物の輸入は絶対にやめてほしい。

ブラックバス等、外来種の無責任な放流、放置に怒りを感じている。取締まりや法規制の強化を望む。

ブラックバス等は積極的に除去すべきである。固有種の保全を最優先すべきだと思う。

近くの川には たくさんの外来魚が泳いでいます。春先は小さな魚ですが 今では成魚になってたくさん泳いでいます。2～3日前テレビのニュースで この公園の魚のことを取り上げていました。どうして駆除されないのか不思議でした。

外来種の排除・固有生物の保護を最優先にお願いします。

攻撃性のある蟻についてテレビの報道等で聞きましたが、あの情報が本当ならば、自治体として もっと、危険性を訴える手段や手法を考えていただきたい。

(7) 生活スタイルの転換について

県民が手軽に地産地消のものを食べられるようにしてほしい。農林業の活性化も必要だと思う。

便利さやモノの豊かさに慣れてる中で、まずは意識改革が必要だと思う。

個人の環境に対する意識を変えるだけで、全体で大きな効果がある。行政は、エコ生活に取り組みやすい環境づくりをしてほしい。日常の中でできることを実践していくことが、個人にも企業にも求められている。

一人でも多くの人がちょっとした気遣いをすることで変わることもたくさんある。ゴミのリサイクルといった身近なことから取り組んでいきたい、

車に乗る回数を減らしたり、ゴミ減量や省エネ等に一人ひとりが取り組めば、生物多様性保全に役立つと思う。

自然環境を作るのも守るのも、一人ひとりである。ゴミの分別等面倒なことでもルールがあれば従う。その積み重ねだと思う。

海岸に行くとゴミが散乱している。種を増やすことや情報を広げることも大切だが、少しでもゴミを減らし生物や人が居心地よく暮らせる環境を作っていきたい。

ドングリの木を育てることがいいとはわかっているが、住宅地に住んでいると落ち葉が問題になる。のびのびと木が育てられるといいと思う。

環境保全のための様々な活動が密接にリンクしてうまく機能する、その目標や目的を皆がイメージできて参加できる仕組みをつくるのが行政の役割だと思う。

便利でなくなることへの不安より、安心できる不便に甘んじる勇気を持ちたい。

休みには子供と一緒に自然とふれあう機会を持つよう心がけている。あって当たり前ではなく、維持していくことを意識して生活していきたい。

日々の暮らしで一杯の人は発展途上国だけでなく、日本にもたくさんいる。衣食足りて礼節を知るで、生物多様性の保全ばかり訴えてもうまくいかないのではないかな。

遺伝子組換えも使用は最小限に抑えてほしい。空き地を利用して麦や大豆、トウモロコシを作り、輸入に頼らず自給できるよう努力すべきである。

もっと日本の昔からの生活を大事にしよう。米を食べて野菜中心の食事なら体にもいいし、魚を

食べればカルシウム不足も解消し、山も手入れをすれば洪水の恐れも少なくなる、そんな世は夢かな。

定年後、農業をしているが、農薬を使用しない・出たごみは再使用する・適正な種子を使用する等、自然を攪乱しないよう気を付けている。古来伝統の種子が、海外雑種に変わり、とても生育が良い。そのため、日本的な作物がなくなるのが心配です。

(8) 開発と生物多様性の両立について

これ以上人間の都合で生態系をこわしてはならない。守るべきだと思う。

現状では、開発は一休みして良い。あまりにも開発が進行してしまったと考える。

人間には知恵があり、これからは経済発展が少々遅れても、自然環境を重視すべき時代だと思う。環境を一番に優先すべきだと思うが、環境に優しい開発の方法を見いだしてほしい。

私たちの暮らしは生物多様性の中で成り立っている。開発はそのことを見据えて取り組んでいくべきだと思う。

住宅開発等は、最小限にとどめ、里山や水田、畑等を守っていく取組がもっと必要だと思う。

住民が自然環境として残したいと希望する場所は、所有者と行政が協力して残してほしい。

とても難しい問題だと思う。地域を限定して生物を守っていくしかないのかと思う。

愛知県は道路の舗装が進みすぎている。生活路線の確保等理由はあると思うが、生態系を考えるとどれほど必要なのかと思う。

難しいと思うが、少しでも折合いのできる点を見つけて、生物多様性と共生できる開発を進めてほしい。

人間は自然の力にはかなわないことを認めて、自然や生物の恩恵に感謝し、人間優先の開発に走らないように願っている。

何かが犠牲になることがないように、解決策を考えて守っていききたい。地域の住民が協力することも重要だと思う。

住宅用地、工業団地ともに大切な用地であるが、そのために自然界の営みが大きく破壊されないように考えなければいけない。

経済活動を無視するのは非現実的である。バランスをとって考えられる人材の育成が必要である。

都市部はもう良いが、山村にはまだ開発が必要な所は多い。

地域によって、開発と保全の重要性は違うと思う。

開発が進んで環境が変わり、サルが出没するようになった。動物の生活する場所がなくなり、食べ物に困っている。共生の難しさを考えさせられる。

万博後、国民の意識は都市の緑化整備から自然環境保全に変化している。開発許可は生物多様性の保全を前提に考えていくことが愛知だからこそ必要だと思う。

人間は過去に豊かになる為、自然に大きな犠牲を強いてきました。これからは地球にとってなに

がよいかを考えて行動する時期が来たと思います。

開発と生物多様性は、両輪であり、共存しなければいけないと思う。将来に向けて、どちらかに偏ってはいけない。

登山が趣味で各地の山へ行きますが、道路が良く整備されていて、一日に何台車が通行するだろう？と思う場所もあります。開発して便利になることは結構なことです、失われた自然環境は元に戻せません。本当に必要な開発かどうかを、色々な立場の方々が慎重に検討して進めていただきたいです。

産業開発も大切だとは思いますが、まずは自然環境に優しい街づくりを優先して安心して暮らせる愛知県になってほしいです。

生物多様性も重要だと思うが、目前に迫る不景気、雇用危機に目を配るべきである。今後世界的金融不安からくる不景気にどのように対策をするか、地方公共団体としての立場から県民にわかりやすくその考えと実行を示す事が重要だと思う。

自然を保つ事は大切だが、都市開発も必要不可欠です。それにより、自然破壊はやむを得ないと思います。それを最小限にして、自然を残していく事が大切だと思います。自然社会と人間社会が共存できる世の中になっていく事を強く望みます。その為に税金を使うことは良い事だと思います。

愛知県の産業発展と豊かな自然の共存は他県にないすばらしい利点だと思います。これは21世紀のこれからの産業のありかたを考えるよいモデルケースでもあると思うので、是非大勢の方の意見やアイデアを取り入れて、よりよい愛知をつくっていただければいいと思います。

開発と生物多様性は両立しないと思う。

開発は必要であり、どうしても犠牲と背中合わせだと思う。

(9) 企業の役割について

環境負荷の大きなものを作る会社には、売上げに対し環境税のようなものを課すことも必要ではないか。

産業の発展とともに、CO₂が排出され問題を引き起こしている。環境に与える影響に応じて、企業に植樹活動を義務づける制度を導入した方がよい。

企業との結びつきは不可欠であり、責任も大きい。業種ごとに環境問題に取り組む企業を助成し、補助金を出すような制度が必要だと思う。

経済の危機的状況で企業の環境の優先が薄れるかもしれないが、太陽光やエコカー等将来的に環境にいいものは今こそ進めてほしい。

枯葉や枝等を利用したバイオエネルギー、堆肥づくり等の紹介、技術開発をお願いしたい。

消費者だけでなく、企業も製造や販売でゴミを出さない工夫をしてほしい。

環境E C Oにつながるような研究開発をしている企業や、企業のボランティア活動等に対しては税制面での優遇策があるといいと思います。逆に廃棄物の不法投棄等悪いことをした場合には徹底

した監視と責任の追及、罰則の強化等が必要であると思います。

企業活動において環境配慮が叫ばれ、各社それぞれが展開を図っているが、まだまだエコとか省エネに対してであり、人間生活中心の考え方に立脚しているに過ぎないと思います。

(10) 自然環境保全活動への参加について

市町村の広報に載せるとか、自然環境保全活動に関する情報の提供を充実してほしい。

自然環境保全の大切さをもっとアピールし、市民運動となるよう情報提供、予算確保を重点的にしてもらいたい。

身近な所での活動であれば参加したい。

活動に参加したいが不便な所では、足がなくいけない。

低年齢からの体験が重要で、親や先生、自治体関係者が良き指導者にならないと保全活動は進展しない。

2か月ぐらい前からホームページ等気軽に申し込める窓口があれば、参加しやすいと思う。

親子で参加できる活動を行い、子供の時から自然環境保全に関わる機会を持てると良いと思う。

子供が小さく時間がない。親子連れで楽しめるようなことなら参加したい。

小学生が参加できるような活動があると良いと思う。

高齢者の力を生かせる軽度の保全活動があると良いと思う。

一般市民が参加しやすいよう敷居を低くしてほしい。NPOもたくさんあって活動がよくわからない。

保全活動に皆が参加して身近に取り組んでいけると良いと思う。春・夏・冬休みの課題学習として親子で参加してみたい。

活動に参加するきっかけとして、小中学生の課外授業で行うとか、自治会、子供会、老人会のイベントで参加してもらおうと良いと思う。

海や川、身近なところから環境美化に努めたり、イベントに家庭から参加しやすい対応をしてほしい。

どのような必要でその場所が選ばれ、その後の手入れや責任を誰が負うのか先のことを見据えた活動でなければならないと思う。

東三河はボランティア活動が進んでいる。これが継続できるよう助成金等の仕組づくりを要望したい。

地域の活動ぐらいで生物多様性が保全されとは思わない。

活動を行うのはプロ的なこと、専門家の方が良い。

保全活動を突き詰めると、他の環境活動や動物保護活動等で見られるように、過激な活動を是とする人や団体が発生する懸念がある。人間の快適な生活との両立を前提とした活動をお願いしたい。

子供たちや未来のためには、やらなければならない事だと思います。子供を持つ親なら皆同じ事

を思っているはずで。親子で参加できる活動を通じて保全意識が高まればと思っています。

(11) その他

愛知の一番の宝は美しい自然だと思う。河川、海岸、海、山、里山を守ることが大切である。

名古屋市に住んでいるが、便利になった反面、多くの尊いモノを失っていくことを実感しています。子供たちには、これ以上、環境を壊さない住みやすい町を残したい。

遺伝子組み換えの是非は、今はわからないが、世界的には必要な時代が来るのではないか。

子供や若い人たちに自然や生物の豊かさを伝え、その保全の中で人間の未来があることを伝えていきたい。

今まで生物多様性を無視してきたツケが回ってきたと思う。今、少しでもできることをしなければ、もっと痛い目に遭うことを考えて、長い目で生物多様性の保全に取り組む必要があると思う。

豊かな自然環境の中に生きる喜びを、自分自身や若い人が味わっていけば、おのずと「何をすべきか、どうすべきか」が見えてくる気がする。

環境の変化で生態系が急激に変化していることは事実だと思うが、それを人間がまた手を加え保護することが本当に良いのか。

我々の生活が豊かになればなるほど環境破壊が進み、地球温暖化や生態系のバランスが崩れる。この状態を食い止めなければ美しい自然が失われてしまうという危機感を一人ひとりが持つように社会や学校での啓蒙が必要である。

生物多様性の保全は目立たない活動であるが、とても必要なことだと思う。どれだけ重きを置いたかによって、将来の地球全体の環境保全が保てる。

「生物多様性」色々な生物と共に微生物等も共存して我々の生活は成り立っています。野山の雑草もそれぞれ何がしかの価値を持って生えていると考えれば、生活の中に取り込んでいけることと思います。人間の都合だけで排除したりすることなく、共存していけるような生活環境を創りたいものです。

県民に「何故、今、生物多性の保全が急務であり必要なのか」という事を、しっかりと伝える事が大切だと思う。それが理解できていなければ、どれだけ生物多様性の保全を叫んでも、今以上の方々が興味、関心を示すとは思えない。このままだと、私達の生活にどのように影響して何年後にはどうなる、こうなるという事まで伝える必要があるのではないだろうか。

Ⅲ 質問と回答

問1 「生物多様性」とは、すべての生物の間に違いがあることを言い、生態系、種、遺伝子という3つのレベルで多様性があるとされています。また、生物多様性は私たちの生活に必要な大気、土壌、水、食料などの恵みをもたらしていますが、「生物多様性」という言葉を知っていましたか。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
知っていた	25.2	33.2	17.7	28.1	25.3	22.4	26.5	15.2	23.5	19.5	35.6
聞いたことがある	33.1	30.6	35.5	30.8	33.5	34.9	36.8	35.3	28.4	24.7	36.9
知らなかった	41.7	36.2	46.8	41.1	41.2	42.7	36.7	49.5	48.1	55.8	27.5
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

問2 2010年、愛知・名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)」が開催されます。これは、191の国と地域が参加して、地球上の生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用、薬の開発など生物の遺伝資源から得られる利益の公正かつ衡平な配分について話し合うものですが、その開催を知っていましたか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
知っていた	32.3	42.7	22.6	39.7	33.0	24.3	26.5	23.8	30.9	28.6	43.6
聞いたことがある	16.0	17.2	14.9	16.5	17.0	14.5	17.6	13.3	13.6	13.0	20.1
知らなかった	51.7	40.1	62.5	43.8	50.0	61.2	55.9	62.9	55.5	58.4	36.3
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

問3 愛知県では、COP10開催地にふさわしい生物多様性の豊かな地域づくりを推進するための行動計画として「あいち自然環境保全戦略（仮称）」の策定を進めていますが、その中で重点的に取り組むべきであると思うことは何ですか。（回答は3つ以内）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
国定公園などの優れた自然環境の保全	37.1	34.9	39.1	41.1	33.5	37.5	38.2	41.9	40.7	36.4	31.5
絶滅のおそれのある野生動植物の保護	53.8	53.4	54.0	56.8	56.6	47.4	55.9	51.4	46.9	42.9	63.8
ブラックバスなどの外来種による生態系への影響の防止	45.6	46.1	45.2	44.5	47.8	44.1	51.5	45.7	45.7	37.7	47.0
イノシシによる農作物被害の防止などの有害鳥獣対策	11.3	9.5	12.9	8.9	6.6	19.1	8.8	10.5	12.3	19.5	8.1
環境保全型農業など、農林水産業の振興	28.1	30.6	25.8	24.0	30.8	28.9	27.9	23.8	29.6	32.5	28.2
産業活動や開発事業における野生生物や自然環境への配慮	39.2	34.9	43.1	43.2	41.2	32.9	32.4	37.1	38.3	50.6	38.3
東海自然歩道など自然との触れあいの場の整備	16.9	22.0	12.1	21.2	14.3	15.8	16.2	18.1	14.8	15.6	18.1
県民への生物多様性保全に関する普及啓発と実践	27.7	28.4	27.0	23.3	26.4	33.6	20.6	27.6	25.9	22.1	34.9
環境学習や環境保全活動の振興	25.4	25.9	25.0	21.2	30.2	23.7	27.9	25.7	25.9	29.9	21.5
その他	1.3	1.7	0.8	0.7	1.6	1.3	1.5	1.9	1.2	1.3	0.7
無回答	0.2	0.4	(-)	0.7	(-)	(-)	(-)	1.0	(-)	(-)	(-)

問4 本県は三河山間部から広大な平野部、その間の里地里山、更には半島がつくりだす内湾など、多様な自然環境が存在しますが、その中で特に保全すべきだと思う場所はどこですか。

(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
森林が多い奥山（原生的な自然など）	59.4	58.2	60.5	63.7	52.2	63.8	72.1	66.7	59.3	57.1	49.7
里地里山	49.2	50.0	48.4	52.1	51.1	44.1	36.8	28.6	45.7	49.4	71.1
湿地湿原	26.5	27.6	25.4	28.8	30.2	19.7	30.9	21.0	32.1	27.3	24.8
都市の街路樹や公園の緑地	30.0	31.9	28.2	37.0	25.3	28.9	22.1	35.2	37.0	32.5	24.8
沿岸域（干潟や砂浜）	43.1	41.8	44.4	36.3	47.8	44.1	35.3	41.0	40.7	39.0	51.7
河川	31.7	31.9	31.5	29.5	32.4	32.9	36.8	32.4	30.9	37.7	26.2
水田や畑などの農地	34.2	31.9	36.3	33.6	32.4	36.8	33.8	40.0	32.1	29.9	33.6
水路、ため池	10.2	10.8	9.7	4.8	11.0	14.5	8.8	8.6	11.1	13.0	10.1
その他	0.8	1.3	0.4	0.7	1.6	(-)	1.5	1.0	1.2	(-)	0.7
特になし	0.8	0.4	1.2	(-)	1.1	1.3	1.5	1.0	(-)	1.3	0.7
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

問5 里地里山は、森林や田畑、草地など色々な自然環境がモザイク状に存在することにより、豊かな生物多様性が育まれています。最近では、都市化の進展や高齢化による森林の手入れ不足などにより荒廃が進んでいます。

里地里山を保全するためには、どのような取組が重要と思われますか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
所有者による維持管理	21.0	21.6	20.6	17.1	23.6	21.7	20.6	19.0	22.2	20.8	22.1
ボランティアによる保全活動	27.1	22.8	31.0	34.2	23.1	25.0	35.3	22.9	29.6	18.2	29.5
地域の住民も参加する保全活動	49.0	51.3	46.8	50.0	49.5	47.4	48.5	31.4	44.4	48.1	64.4
行政による維持管理	33.3	34.9	31.9	40.4	29.7	30.9	35.3	37.1	37.0	36.4	26.2
地産地消などによる農林業の活性化	50.6	46.6	54.4	50.0	50.0	52.0	41.2	52.4	50.6	49.4	54.4
農林業体験など、都市住民との交流の活性化	34.4	31.9	36.7	32.9	36.8	32.9	33.8	40.0	35.8	32.5	30.9
里地里山での新たなビジネスチャンスの創出	32.1	43.5	21.4	28.8	35.2	31.6	22.1	37.1	29.6	33.8	33.6
生活環境の整備などの行政による山村振興	31.3	26.7	35.5	30.8	32.4	30.3	26.5	29.5	27.2	41.6	31.5
その他	1.9	2.6	1.2	0.7	1.6	3.3	2.9	2.9	2.5	1.3	0.7
特に必要ない	1.0	0.9	1.2	0.7	(-)	2.6	2.9	1.9	(-)	1.3	(-)
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

問6 ブラックバスやミドリガメなどの外来種が、本来その地域で生息する在来種を圧迫するなどの生態系に与える影響が問題となっています。外来種に対する対策として必要と思う取組は何ですか。

(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
外来種の駆除	52.5	62.5	43.1	52.1	48.4	57.9	48.5	60.0	59.3	51.9	45.6
外来種の放逐、植栽・種まき等の禁止	52.5	53.0	52.0	53.4	54.9	48.7	52.9	45.7	55.6	46.8	58.4
法令による規制の強化	54.6	54.7	54.4	62.3	50.5	52.0	50.0	51.4	60.5	54.5	55.7
植栽等における在来種の利用	9.2	8.6	9.7	8.9	8.8	9.9	7.4	8.6	8.6	11.7	9.4
最後まで責任をもって飼うなど、ペットの適正飼養	36.7	29.3	43.5	31.5	40.1	37.5	44.1	40.0	32.1	32.5	35.6
外来種の生息状況などに関する正確な情報の提供	31.5	30.6	32.3	26.0	31.9	36.2	23.5	28.6	32.1	35.1	34.9
外来種とその影響に関する県民への普及啓発	43.1	44.8	41.5	45.9	46.2	36.8	44.1	36.2	35.8	51.9	47.0
その他	0.6	0.4	0.8	0.7	1.1	(-)	1.5	1.0	1.2	(-)	(-)
特に必要ない	0.6	(-)	1.2	1.4	(-)	0.7	1.5	(-)	1.2	(-)	0.7
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

問7 今日の環境問題は生物多様性の危機も含めて、私たちの日常生活や社会経済活動に起因していると言われていました。したがって、これらの問題解決のためには、県民一人ひとりが環境に優しい生活スタイルへ転換していくことも必要ですが、そのためにあなたが必要と思う取組は何ですか。

(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
地元農産品の購入など地産地消	64.8	58.6	70.6	61.6	67.0	65.1	61.8	68.6	64.2	59.7	66.4
無農薬、低農薬など環境に配慮して生産された商品の優先的な購入	48.8	50.9	46.8	51.4	53.8	40.1	38.2	38.1	45.7	51.9	61.1
環境学習・保全活動への参加	36.5	43.1	30.2	35.6	34.6	39.5	41.2	30.5	42.0	31.2	38.3
身近な場所での植樹など緑化活動	26.9	28.0	25.8	32.9	26.4	21.7	33.8	33.3	25.9	27.3	19.5
ゴミの減量化やりサイクルの取組	61.3	56.0	66.1	50.7	62.1	70.4	52.9	63.8	53.1	70.1	63.1
省エネルギー活動(公共交通機関への転換など)	39.6	41.4	37.9	44.5	38.5	36.2	39.7	42.9	45.7	31.2	38.3
その他	2.1	1.7	2.4	1.4	1.6	3.3	2.9	2.9	2.5	2.6	0.7
特になし	0.4	0.9	(-)	(-)	(-)	1.3	(-)	(-)	1.2	1.3	(-)
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

問8 本県では、活発な産業活動が発展を支えてきましたが、その一方で住宅用地や工業用地への利用により、自然が失われてきました。開発と生物多様性の両立について、どのようにお考えですか。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
今後とも開発は必要であり、ある程度生物多様性が犠牲になることもやむを得ない。	4.6	4.8	4.4	4.8	2.7	6.6	4.4	3.8	2.5	9.1	4.0
開発も生物多様性も共に重要であり、両立させる対策を考えるべきである。	68.1	69.4	67.0	67.1	66.5	71.0	69.1	72.4	63.0	58.4	72.5
開発よりも、生物多様性の保全を優先すべきである。	26.3	24.1	28.2	27.4	30.2	20.4	25.0	23.8	33.3	32.5	21.5
その他	1.0	1.7	0.4	0.7	0.6	2.0	1.5	(-)	1.2	(-)	2.0
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

問9 生物多様性の保全のためには、社会経済活動を支える企業の役割も重要ですが、どのような役割を期待しますか（回答は3つ以内）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
植樹活動や清掃活動などの社会貢献活動	36.9	38.8	35.1	37.7	33.5	40.1	36.8	40.0	38.3	29.9	37.6
リサイクルや省エネの取組	52.5	49.6	55.2	53.4	53.3	50.7	57.4	62.9	58.0	46.8	43.0
廃水、ばい煙などの環境対策	52.9	49.1	56.5	54.8	52.7	51.3	48.5	50.5	55.6	66.2	48.3
環境に配慮した商品やサービスの提供	29.4	30.2	28.6	23.3	30.8	33.6	17.6	22.9	34.6	29.9	36.2
バイオマスなど再生可能な生物資源の利活用	22.3	22.0	22.6	20.5	23.6	22.4	23.5	19.0	19.8	19.5	26.8
生物の機能や構造を生かした技術開発	24.4	21.1	27.4	24.7	24.7	23.7	19.1	20.0	21.0	27.3	30.2
生物多様性保全に向けた社員教育	12.3	13.8	10.9	11.0	12.1	13.8	19.1	5.7	12.3	13.0	13.4
木材など資源提供国での環境保全や技術協力	16.3	16.8	15.7	16.4	19.8	11.8	19.1	19.0	8.6	14.3	18.1
環境保全に関する新技術の開発	36.0	43.1	29.4	37.7	35.7	34.9	38.2	37.1	35.8	36.4	34.2
その他	1.9	2.6	1.2	1.4	1.1	3.3	2.9	1.9	2.5	1.3	1.3
特になし	0.4	0.4	0.4	0.7	(-)	0.7	(-)	1.0	(-)	1.3	(-)
無回答	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

問10 本県の各所では、自然観察活動、里山保全活動、植樹活動、アカウミガメなど希少動物の保護活動など、様々な自然環境保全活動が行われていますが、これらの活動に参加したことがありますか。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
参加したことがあります、今後も参加したい	9.2	9.1	9.3	7.5	9.3	10.5	4.4	4.8	7.4	11.7	14.1
参加したことはないが、参加してみたい	66.3	66.8	65.7	66.4	68.7	63.2	64.7	72.4	66.7	51.9	69.8
参加したことはあるが、今後、参加したいとは思わない	3.3	2.6	4.0	1.4	4.4	3.9	5.9	3.8	1.2	5.2	2.0
参加したいとは思わない	17.9	19.4	16.6	20.6	15.4	18.4	22.1	18.1	17.3	26.0	12.1
その他	2.9	1.7	4.0	3.4	2.2	3.3	2.9	0.9	7.4	3.9	1.3
無回答	0.4	0.4	0.4	0.7	(-)	0.7	(-)	(-)	(-)	1.3	0.7

問11 自然環境保全活動に多くの方々に参加していただけるようにするためには、行政としてどんなことが必要だと思いますか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	480	232	248	146	182	152	68	105	81	77	149
日程や場所など各団体の活動に関する情報提供	72.1	70.7	73.4	73.3	76.4	65.8	66.2	72.4	77.8	63.6	75.8
現地での指導者となる人材の養成	41.3	41.4	41.1	41.8	34.1	49.3	39.7	33.3	28.4	46.8	51.7
ホームページの開設など、気軽に参加を申し込む事ができる窓口	54.0	52.6	55.2	52.1	59.3	49.3	64.7	57.1	63.0	50.6	43.6
植樹や間伐を行う活動場所の確保	23.5	27.2	20.2	28.1	22.0	21.1	22.1	28.6	21.0	22.1	22.8
活動を主催する団体への財政的な支援や技術的な助言	43.5	44.8	42.3	43.2	41.2	46.7	32.4	38.1	38.3	45.5	54.4
活動の拠点となる施設の整備	24.6	28.0	21.4	26.7	23.1	24.3	26.5	24.8	23.5	26.0	23.5
その他	4.4	4.7	4.0	2.7	5.5	4.6	5.9	5.7	6.2	5.2	1.3
無回答	0.8	0.9	0.8	0.7	(-)	2.0	(-)	(-)	(-)	2.6	1.3

平成20年度第4回県政モニターアンケート報告書

「生物多様性の保全」
平成21年3月発行
愛知県知事政策局広報広聴課
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話(052)954-6169(ダイヤルイン)

この冊子は、再生紙を使用しています。

